

はじめに

観光立県を目指す鹿児島では、平成23年3月に九州新幹線が全線開業し、現在「新青森駅」から「鹿児島中央駅」まで、日本列島約2,000kmを縦断する新幹線網が整備されるとともに、ソウル・上海・台北のアジアの主要都市と国際航空路線網で繋がり、国内外から誘客するための陸・海・空のインフラも整ってきたところであります。これからは、豊富な観光資源をさらに磨き上げ、魅力溢れる国際観光都市づくりに向けて行政や関係団体、県民一体となつての取組みが求められております。

このような中、鹿児島商工会議所では、平成18年から「かごしま検定～鹿児島観光・文化検定～」を実施し、「かごしまマスター試験」は本年5月で20回目、上級の「シニアマスター試験」が18回目、最上級の「グランドマスター試験」は13回目の試験を行い、これまでに延べ約9,000名が受験し、多くのかごしまファンを産み出して参りました。

また、平成22年からは、かごしま検定の一環として、郷土教育の醸成を目的に、県教育委員会と連携を図り、小中学生を対象とした「かごしまジュニア検定」を実施しました。これまでに約6万人の小中学生がチャレンジし、鹿児島の誇れる自然・歴史・文化など多彩な地域資源を学んでいただきました。

私どもでは、かごしま検定で培った知識を鹿児島の観光振興、地域活性化に活かすべく、平成23年に、グランドマスター試験の合格者有志による「グランドマスターネットワーク」を発足させました。発足後は、「鹿児島」に関する自然・歴史・文化・産業経済など様々な知見の発掘・学習と広報に努めて参りました。

この度、その活動の一環として、鹿児島商工会議所を中心に展開する「九州新幹線全線開業経済効果最大化プロジェクト」のテーマである“鹿児島で日本を知る”を切り口に、全国的にあまり知られていない鹿児島の観光資源や事象等をまとめた冊子「なるほど・ザ・鹿児島」を発行することになりました。

メンバーが紹介する、これまでとは少し違った目線で捉えた75編の「なるほど」をお読み頂き、新たな観光資源や観光ルートの醸成につながれば幸いです。広く県内外へ情報発信し、鹿児島県の観光振興に結びつくことを祈念しております。

平成25年7月

グランドマスターネットワーク 代表世話人 大 重 康 雄

自然

日本列島の中の鹿児島県の地理的特徴	1
新しい鹿児島県の海域公園	2
南限のブナの育つ高隈山	2
錦江湾の不思議な話	3
震災復興の星「サツマハオリムシ」	4
始良カルデラ	4
阿多カルデラの贈り物	5
サシバ渡る景勝の地・辻岳	6
地図から消えた本土最南端の山	7
屋久島は世界自然遺産	8
伊仙町の宝「明眼の森」	8

歴史

日本は鹿児島県から始まった！？	9
天孫降臨ニニギノ命は永遠の命より美人妻を選びました	10
久多島の伝説	10
さつまから全国へ～さつまいもの普及～	11
平家一門の薩摩下り	12
平家の落人伝説と鹿児島県	13
日本一長く続いた大名島津家	13
桂庵玄樹と大学章句	15
島津家久京都旅日記	16
日本最強、島津軍団	17
昆布に魅せられたプロジェクトの取組み	18
鹿児島県のいも侍	19
危うし？岩永三五郎	20
西郷隆盛も読んだ明治維新の頃の漢文の聖書	21
西郷隆盛は実は三度島流しにされていた	21
西郷隆盛の長男が台湾にいた	22
西郷の愛犬ツンは東郷町の百姓の犬だった	22
鹿児島県にゆかりの銅像ア・レ・コ・レ	23
人吉陥落後、西郷軍は県内を転戦した	24
小松帯刀は若くして大藩薩摩藩の全権を握っていた	25
小松帯刀は粋な男だった	25
薩摩に産声をあげた日本の洋式紡績工場	26
集成館事業を支えた吉野台地の関連遺産	27
日本の資本主義を育てた人々	28
新しい世紀を象徴する鹿児島県の鉄道	28
「坂の上の雲」を駆けるトロイカ	29
日本の地域産業の基礎を築いた前田正名	30
運動会の生みの親～初代文部大臣森有礼～	31

私立幼稚園の草分け～古市静子～	32
日本の航空の先駆者・奈良原三次	33
「ビタミンの父」といわれた高木兼寛	34

文化

世界的クライマー小山田大を育てた千貫岩	35
オリンピックと鹿児島人	36
鹿児島の食文化の繁栄を築いた黒豚	37
東郷平八郎のわがままから生まれた肉じゃが	37
鯉節は心を“ホッ”とさせる幸せの味	38
黒潮文化の鹿児島はこんな所です	39
銘菓「春駒」の名前の由来	40
地名に残る日本の芸能のルーツ	41
島津家と縁の深い薩摩琵琶	41
過酷を極めた薩摩藩の一向宗国禁と廃仏毀釈	42
薩摩おごじょのアイドル今昔	43

地域

意外に似ている島と森	44
鹿児島とフェリー	45
桜島大正爆発の影響	45
谷山にあった軍馬補充部	46
牧園にあった鹿児島種馬所	46
食用馬輸入の最大の門戸鹿児島空港	47
日本で一番早い市民マラソン・いぶすき菜の花マラソン	48
徳之島カムイヤキ陶器窯跡について	48
竜宮伝説は開聞、山川が本命だ	49
文豪の愛したお料理上手～坊津おごじょ達～	50
世間自然遺産・僕立公園垂水千本イチョウ	51
西郷隆盛ゆかりの南大隅・根占	52
3島なのに十島村！	53
入来と鹿児島にある国立天文台の電波望遠鏡	54
宇宙ロケット発射場は、どうして鹿児島が選ばれたの？	55
日本のロケット基地 内之浦と種子島	56

産業

ロケットを支えた女性たちの力	57
躍進する鹿児島港と志布志港	59
公営路面電車で日本一の鹿児島市電	60
農業の発展に私財を投げ打った加納久宜知事	61
さつまいもの効用	62
鹿児島と競馬の意外な関係	63

日本列島の中の鹿児島島の地理的特徴

古市 吉男

1. 日本で最も長い県

日本列島約3000kmの中で、離島の多い鹿児島県は南北約600km、日本で一番長い県であり、離島面積は全国1位です。県域は温帯から亜熱帯にまたがる温暖な気候に恵まれ、多種多様な動植物が生息し、自然豊かな景勝地がたくさんあります。

2. 類似する錦江湾（鹿児島湾）と東京湾の違い

錦江湾と東京湾、二つの湾の形と大きさはとてもよく似ています。しかし、錦江湾の湾奥には鹿児島を象徴する桜島（標高1,117m）がそびえています。また、東京湾はその75%以上が水深20mより浅いのですが、錦江湾は20mより浅い海域は15%に過ぎません。一番深いところは237mもあり、日本で深海を持つ唯一の内湾です。

3. 鹿児島県と北海道の地勢の類似点

火山国日本には多くのカルデラが存在しますが、この12万年間に限れば、カルデラが生じた大噴火は、13回しかありません。そのうちの5回は北海道、4回は鹿児島県で起きています。後の4回は青森県十和田と熊本県阿蘇関連の各2回で、すべて日本の大きな4島の南北で起きています。これは、温泉の泉源数が鹿児島県が全国2位、北海道が3位という温泉大国であることにも関係しています。

九州本土南端の鹿児島県佐多岬の南の海上には、細くて平らな種子島と丸くて高い屋久島（標高1,936m：九州最高）が対になって浮かんでいます。同様に北海道の北端宗谷岬の西の海上には、細くて平たい礼文島と丸くて高い利尻島（標高1,721m）が対になって並んでいます。4島とも観光資源の多い島です。特に屋久島は、日本初の世界自然遺産に登録されました。

屋久島や利尻島での珍しい気象現象に、カルマン渦があります。カルマン渦とは、川に杭を打ったときなどに左右交互に流れる渦のことです。海上に孤立した標高の高い島では、寒気が吹き出したときなどに風下の雲にカルマン渦が生じ、たまに気象衛星写真や飛行機から交互に2列に並んだ渦状の雲が観測されます。



参考文献

国土地理院資料、帝国書院標準高等地図、鹿児島県「県勢概要」、大木公彦著「鹿児島湾の謎を追って」、鹿児島大学総合研究博物館「News Letter No.30」、NPO法人くすの木自然館「錦江湾の生き物」、東京書籍「気象科学事典」、日本温泉総合研究所「日本の温泉データ」、早川由紀夫群馬大学教授ネット情報、鹿児島県地方気象台・稚内地方気象台情報

新しい鹿児島の海域公園

古市 吉男

2010年の新しい自然公園法の施行で、霧島屋久国立公園は、霧島錦江湾国立公園と屋久島国立公園に分けられ、2012年新設の海域公園に錦江湾の5地区が指定され、従来海中公園であった桜島・佐多岬両地区も海域公園になりました。

かんぜ
神瀬地区（鹿児島市）83ha

鹿児島市と桜島の間にある灯台のある瀬で、サンゴ礁や藻場があり、魚種が豊富です。

かみづくりしま
神造島地区（霧島市）10.3ha

隼人沖に海底から隆起した辺田小島、弁天島、沖小島の三つの無人島で、湾奥の景観を特徴づけています。

わかみこぼな
若尊鼻地区（霧島市）19.9ha

福山の海岸に突き出た岩場で、ヤマトタケルが熊襲征伐に上陸したという伝説のある景勝地です。

わかみこかいざん
若尊海山（霧島市）170.7ha

福山沖には、ワカミコカルデラの海底火山活動があり、通称「たがり」。全国の海域公園で深海地区はここだけ。珍しい生態を持つ「サツマハオリムシ」が生息しています。

しげとみひがた
重富干潟（始良市）38.2ha

錦江湾で最大の干潟が見られ、約300種の生物が生息し、干潟と桜島が織りなす景色が素晴らしいです。



重富干潟から桜島を望む
写真提供：NPO法人くすの木自然館

参考文献

環境省資料、霧島市・始良市観光資料、NPO法人くすの木自然館「錦江湾」、NPO法人くすの木自然館「錦江湾の生き物」

南限のブナの育つ高隈山

内山 憲一

高隈山は垂水市と鹿屋市にまたがる、鹿児島県本土では霧島に次ぐ高さの山域です。最高峰の大籠柄岳（おおのがらだけ・1236m）を始め妻岳・御岳など千mを超える山々が連なり、花崗岩の美しい滝や沢が多数あります。高隈山に降った豊富な雨は、長い年月を経て垂水の美味しい湧水となります。

このような山域には様々な植物が生育しています。タカクマヒキオコシやタカクマホトトギスなど「タカクマ」と名の付いた植物も多いのですが、ここを南限とする植物も多く、ブナやミズナラその他ナツツバキ・マンサク・ホソバシユロソウなど沢山有ります。

垂水側の麓には猿ヶ城溪谷が見事な溪谷美を見せており、最近地元有志によって刀剣山のルートが整備されました。この山の中腹では晩秋にヤッコソウの群落も見られます。

豊かな自然の高隈山を、鹿児島県民だけでなく、日本全国の自然愛好家に楽しんでもらえるよう情報発信していきたいと思ひます。



南限のブナの巨木を見上げて（横岳西方）

参考文献

大野照好『鹿児島島の植物』（春苑堂出版）

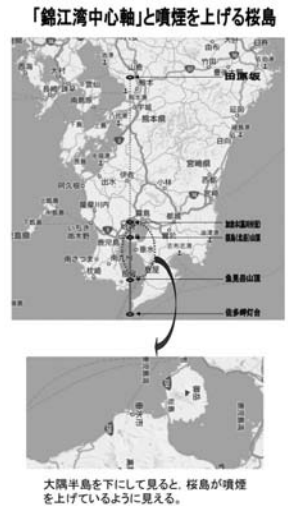
錦江湾の不思議な話

西 正智

童謡「我は海の子」のモデルとも言われ、多くの県民に親しまれている錦江湾（正式には鹿児島湾）。今日も当たり前のように広がるこの海は、実は「不思議」の宝庫なのです。

錦江湾の名前は、島津氏第18代の島津家久が現在の始良市加治木町で詠んだ「浪のおりかくる錦は磯山の梢にさらす花の色かな」という歌が由来とされていますが、その加治木の地と、桜島（最も高い北岳）の山頂、指宿のシンボル魚見岳の山頂、そして佐多岬灯台が同じ経度上で一直線に並んでいると言ったら、首をかしげる方も多いのではないのでしょうか。最近インターネットで簡単に緯度経度を調べることができますので確認してみると、全て東経130度39分付近にあることがわかります。錦江湾は南北にまっすぐ伸びていると思いきや、よく見ると蛇行していて、湾奥の錦江湾由来の地、中央に浮かぶ桜島、湾口の両端のシンボルが南北に一直線に並ぶという不思議を演出しています。鹿児島を貫く「錦江湾中心軸」とも呼ぶべきこの線は、今後の鹿児島観光のまさに中心軸となりそうです。ちなみに、この軸を北にまっすぐ伸ばすと、西南戦争の激戦地で薩軍の命運を決した熊本県の田原坂に至るというのも何かの因縁かもしれません。

錦江湾の不思議をもう一つ。御承知の通り、桜島は大正の大爆発で大隅半島と陸続きになりましたが、その結果、不思議なことが起こりました。お手元に鹿児島の地図があれば、大隅半島を下にして錦江湾の真ん中あたりを見てみてください。噴煙を上げている桜島が見えてきませんか。錦江湾にせり出した垂水市付近が桜島で、桜島自体は噴煙です。これを見ると、桜島が大隅半島と陸続きになったのは、自らの姿を具現化するための必然であったかと勘ぐりたくもなります。ほかにも、大きなすり鉢状の海底や、多種多彩な海洋生物など、錦江湾の不思議な話は尽きることがありません。



参考文献

Google Map、ジオロケーター日本語版

震災復興の星「サツマハオリムシ」

大重 康雄

サツマハオリムシは、1993年に海洋科学技術センター（現 海洋研究開発機構）と鹿児島大学が調査のため鹿児島湾の海底噴気孔近くで採取に成功した世界で最も浅いところに棲むチューブワームです。このサツマハオリムシは、研究のため遠く岩手県大船渡市の北里大三陸キャンパスでも飼われていました。先の東日本大震災では、同大学三陸キャンパスの飼育水槽も被災し、ライフラインが途絶したため、当時飼育していた殆どの生物が、死滅したとのことでした。

震災から3ヶ月後、同キャンパスが神奈川県のカンパスに一時撤退することになり、サツマハオリムシ水槽も移動することになりましたが、その時水槽の水は腐敗水と化し、真っ黒に変色していました。ところがなんとサツマハオリムシは、この腐敗環境を逆手に取り成長を促進させ、発表では5センチ程伸張したとのことでした。震災による環境の劇的変化に堪え、むしろ成長してみせるサツマハオリムシは、震災復興への希望の星であります。

参考文献

- ・独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTE）ホームページ「ブルーアース2012 ポスターセッション資料BE12-P18」
- ・かごしま検定公式テキスト

始良カルデラ

土岐 健三郎

カルデラは火山地域にできた巨大な円形のくぼ地であります。始良カルデラは霧島錦江湾国立公園のほぼ中央部（鹿児島湾奥部）に位置しています。南北約23km、東西約24km、面積は429km²で世界最大級で、約2万9千年前にできた海域カルデラです。始良カルデラの南縁に活火山の桜島があります。外輪山にあたる鹿児島市の吉野台地、霧島市の上野原台地や狐ヶ丘台地などから望む始良カルデラの遠望は、日本が世界に誇る景観です。始良カルデラの北東部に水深200mの「若尊カルデラ」があり、活火山にも指定されています。深い海底の若尊カルデラが国立公園に指定されたのは日本ではここだけです。この海底から「たぎり」と呼ばれる火山性ガスが噴出しており、希少金属アンチモンに富む鉱床も確認されています。始良カルデラの中の桜島北東部沖に位置する「新島」（鹿児島市）は桜島の1779（安永8）年の噴火の際に出現した島で面積は0.1km²、人口は現在4人（3家族）で県内で最も小さい有人島です。

参考文献

- かごしま検定公式テキスト、News Letter No30（鹿児島大学）、中学社会科教科書（中教出版）

阿多カルデラの贈り物

山田 文憲

全域が阿多カルデラの中にある指宿市を^{いち}一という文字をキーワードに、指宿駅から山川、開聞と時計回りに簡単に紹介します。

1. 橋牟礼川遺跡と砂むし温泉

橋牟礼川遺跡は、日本で初めて（一番目）縄文時代が弥生時代より古い事を証明された遺跡です。砂むし温泉は世界でも唯一指宿にしかない砂風呂です。ぜひお試しください。



2. 山川港と竹山

山川港は火口海でマールの一つです。鶴の港と呼ばれ、歴史ある天然の良港です。竹山は近頃、スヌーピー山として人気ですが、火山の一つで天狗伝説や修験道の霊場でもありました。西側から見た山肌に修験者の顔らしきものが・・・



3. 徳光神社と長崎鼻

薩摩に一番最初にサツマイモを持ち帰り、広めた前田利右衛門を祀ってあります。近くに本土で一番南のJR西大山駅があります。長崎鼻は、薩摩半島で一番南の岬で、ここからの眺めは最高です。

4. 開聞岳と枚聞神社

開聞岳は、その姿が日本一の富士山に似ていることから、薩摩富士とも呼ばれ、珍しいトロコニーデ火山です。枚聞神社は薩摩一の宮で開聞岳を御神体とし、北向きの珍しい社です。



5. 玉の井と唐船峡

玉の井は、山幸彦と豊玉姫が出会った場所で、日本で一番古い井戸と言われています。唐船峡は、唐の船が入りしていた事から由来しています。又、回転式ソーメン流しは、昭和42年、時の助役が発案し、日本で一番最初に出来た物です。

6. 池田湖

九州で一番大きな湖で、世界一といわれる大うなぎが棲息しています。幻の怪獣イッシーは・・・



7. 知林ヶ島と魚見岳

一本の砂の架け橋が現われる。この現象は、まるで私達を島へ招待している様に感じます。又、魚見岳から、知林ヶ島や砂州が見え、市内も一望出来ます。

8. なのはなマラソン

魚見岳近くの陸上競技場を会場に、日本で一番最初に行われるフルマラソン。阿多カルデラを一周するコースで、景色やおもてなしに感動し、年々参加者が増えています。この素晴らしい自然を訪れた人々に堪能してもらう為にも、阿多カルデラからの贈り物を守り、子々孫々に残していきたいものです。

参考文献

かごしま検定公式テキスト（南方新社）、鹿児島県謎解き散歩（新人物往来社）、郷土資料事典（人文社）
河野覚兵衛伝（松下尚明）、指宿ジオパーク研究会、指宿まるごと博物館

サシバ渡る景勝の地・辻岳

平野 紀一

南大隅町の雄川河口近くに樹齢1000年という大きな楠があります。古く南蛮船が船を繋いだと伝えられており、この楠の見える河口では、今では国際的になったドラゴンボートフェスティバルが毎年10月に行われます。そこから眺める辻岳は秀麗で根占富士とも呼ばれています。この河口から佐多岬にかけての地域は霧島錦江湾国立公園の一部を構成しています。

辻岳の山腹は人工林のほかは常緑照葉樹林が多くを占めますが、山頂（773m）部は草地となっており、5月には佐多ツツジの花が楽しめます。花崗岩の巨岩が露出しており、そこから360度の眺望が開けます。眼下にフェリーの行きかう波静かな錦江湾、その向こうに秀峰開聞岳、北に高隈山、噴煙をたなびかせている桜島まで望見できる壮大なパノラマは見ごたえ十分です。

秋になるとサシバ（鷹の一種）の群れ飛ぶ姿が見られ、ここ肝属山地から佐多岬にかけての地域は絶好の観鳥スポットとなっています。夏に各地で子育てを終えたサシバはこの地に集結し、さらに南の島々を経て東南アジア方面を目指します。秋の好天の日の上昇気流を捉え、群れをなして南に飛び去ります。

辻岳山腹の林道根占中央線沿いにあるパノラマパーク西原台からの眺望もすばらしく、天気の良い日はパラグライダーの愛好者の姿も見られます。ここから南に約12km離れた野尻野台地には南大隅ウインドファーム根占発電所の20基の風車が約3万kwの電力を生み出しています。開聞岳に沈む美しい夕日と時代を反映した風力発電所の風車の姿は自然と人間の新しい調和の姿なのかもしれません。

参考文献

『根占郷土誌・復刻改訂版』（根占町）・『九州の山歩き』（九州の山研究会・海鳥社）・『鹿児島県の山』（鹿児島山岳会・山と溪谷社）
『鹿児島県の山歩き』（吉川満・葦書房）



西原台から開聞岳を望む（南大隅町商工観光課提供）

地図から消えた本土最南端の山

内山 憲一

佐多岬の御崎山（みさきやま）は、最近復刻された「鹿児島縣治式覽概表」（明治十二年）に、高千穂峯や高隈山等と並んで大隅の名山の一つとされています。ところが国土地理院の地形図には山名が表記されていません。地形図に山名の表記されていない山は多々ありますが、御崎山の名前は人々の記憶からも忘れ去られてしまったようです。

御崎山は御崎神社の裏山で、標高220m余りの本土最南端の山で、登山道はありません。私は延べ50日以上かけた錦江湾の分水嶺踏破の最終目的地として、平成16年12月に田尻集落から佐多岬まで歩きました。この時初めて御崎山に登りました。山中には建物跡があり、山頂付近には塔の支柱の跡らしき穴がコンクリートの基礎に残っていました。以来ほぼ毎年、新春恒例登山として御崎山と佐多岬を訪れています。本土最南端の佐多岬を目的地として、展望所から藪を漕ぎ一般の観光客の行かない岬の突端に立った後、釣り人の使う崖道を下り、灯台のある大輪島の対岸の磯まで歩いています。

ところで御崎山は何故忘れられてしまったのでしょうか。それは御崎山の建物跡や佐多岬の突端に残る石組みにヒントがあります。南薩や大隅各地に残るものと同様に、太平洋戦争の遺構です。本土最南端は、南方から本土に迫る敵の動きを一番早く知り得る場所です。御崎山の山頂には高い塔が建てられ、軍が常駐していたことが想像されます。また南大隅町出身の大先輩は、佐多岬の突端に機銃の台座が設置してあったと語られました。大輪島の佐多岬灯台は、昭和20年3月18日に敵に破壊され、5年後再建されました。このような軍事上重要な場所だったため、地図にも記載されなくなったのだと思います。

このような歴史も含めて御崎山を本土最南端の名山として全国に発信することができれば、佐多岬観光の魅力を一層高めることに繋がるでしょう。

参考文献

『鹿児島縣治式覽概表（復刻版）』（鹿児島県統計協会）



佐多岬突端から展望台（現在は撤去）と御崎山

屋久島は世界自然遺産

土岐 健三郎

屋久島は1993年にわが国初の世界自然遺産に登録されました。登録範囲は島の総面積約500km²のうち、島の西部海岸から宮之浦岳（1936m）を含む山岳部にかけての約107km²の地域です。世界遺産への登録基準10項目のうち、屋久島が認められた登録基準は7項目（自然美）と9項目（生態系）の2項目です。7項目（自然美）が認定されたのは日本では屋久島だけです。まず7項目（自然美）については、樹齢千年以上の屋久杉が独特の美しい森林景観を生み出していることです。登録範囲内の屋久島のシンボリック存在の「縄文杉」の樹齢については諸説もありますが、幹が空洞であるため現在もはっきりしていません。つぎに9項目（生態系）については、平地から山頂へと植生が変わり、亜熱帯から亜寒帯までの植物が垂直に分布している点が貴重で、このような植生が見られる地域は地球上でも数少ないです。また、ヤクザル、ヤクシカなどの生息も、独自の生態系を表しています。

参考文献

かごしま検定公式テキスト、世界遺産大辞典（上）（世界遺産アカデミー）

伊仙町の宝「明眼の森」

内匠 洋子

明眼森の神様に願い事をすると、必ず叶えてくれると地域の人たちは信じています。伊仙町の大地は、今から約6500万年以上前の中生代に海底でできた砂岩や泥岩などのたい積岩と、その後にマグマが深いところでゆっくりと冷えて固まった花崗岩で、さらにサンゴなどからなる新しい時代の石灰岩が重なり、少しずつ隆起して階段状の地形となっています。島の西部から南部にかけて「琉球層群」とよばれる石灰岩とれきや砂の地層が分布しています。

伊仙町の明眼の森は、2012年12月16日に国の文化審議会が天然記念物に指定するよう文部科学大臣に答申しました。石灰岩地に残る自然林は国内でも少なく「南西諸島を代表する森林」と評価されました。風葬やノロ（祝女）にまつわる土地として守られてきた明眼の森からは海が見えます。交易に出た時代の島の人たちも同じ景色を見たことでしょう。

参考文献

南日本新聞記事、「鹿児島島の歴史散歩」

日本は鹿児島から始まった!?

西 正智

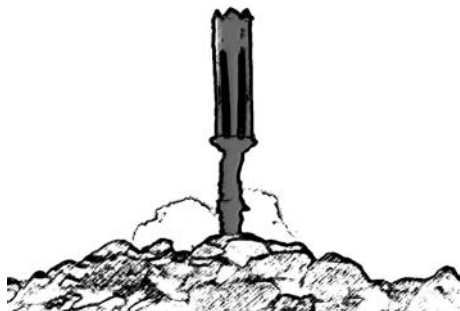
日本という国はいつどこから始まったのでしょうか? そんなロマンあふれる問いに答えてくれるのが、古事記や日本書紀などが伝える神話の世界です。その舞台が現在のどこだったのかについては諸説あって定かではありませんが、それはまさに鹿児島であったに違いないと思わせてくれるほど、鹿児島には神話にまつわる伝説や史跡が残されていて、しかも見事なまでにつながっています。以下、現在の地名に置き換えて一部を紹介します。

遠い神代の昔、アマテラスオオミカミに地上を治めるよう命じられた孫のニニギノミコトが、多くの神々を連れて筑紫日向の高千穂峰に降りてこられました。これが、いわゆる天孫降臨です。ニニギノミコトは、現・南さつま市加世田の地に笠狭宮という最初の皇居を建て、コノハナノサクヤヒメ（桜島の名前の由来とも言われる）を后としました。そこには「日本発祥の地」の碑が建てられています。その後、東シナ海を北上してたどり着いた地に千台（高殿）を築いて住んだことから、そこを川内と呼ぶようになったと言われます。

以上のように話を続けるときりがなく、鹿児島には神話ゆかりの地がまだまだ数多くあります。ニニギノミコトの子のヒコホホデミノミコト、孫のウガヤフキアエズノミコトまでを神代三代といいますが、明治政府によって三代の陵墓が順に可愛山陵（薩摩川内市）、高屋山上陵（霧島市）、吾平山上陵（鹿屋市）と定められ、現在でも宮内庁が直接管理しています。そのことだけでも、鹿児島が神話の故郷であるとするに十分な論拠だと思いますが、以上記述した痕跡を時系列になぞると、まるでひらがなの「の」の字のように県内を移動していて、県内一円との深いつながりを暗示しているかのようです。そして極めつけは、ひ孫のカムヤマトイワレヒコノミコトが志布志湾から東に攻め上り神武天皇となったという伝承です。鹿児島はまさに「日本発祥の地」であったのかもしれない。

参考文献

笠狭宮跡碑文、日本発祥の地碑文、新田神社「参詣のしおり」



天孫降臨ニニギノ命は永遠の命より美人妻を選びました

今井 征男

八百万（やおよろず）の神々を支配する太陽の女神「天照大御神（アマテラスオオミカミ）」は統治することになった「葦原中国（アシハラノナカツクニ）」（日本国）に孫の「ニニギノ命」を差し遣わし、筑紫日向の高千穂の峰に天降られます。そして「韓国（からくに）」に向かい、「笠狭の御前（みさき）を真来通りて……いと吉き地」とある現・南さつま市に宮殿を構えてしまいます。ある日、開聞（ヒラキキ）の海岸を歩いていると美しい姫に出会います。やがてここで出会った「コノハナサキヤヒメ」と結婚するのですが、父親のオオヤマツミノ神からは姉の「イワナガヒメ」も一緒に献上したいと申し出があったのです。そうすれば天津神の御子たちの命は永遠であるだろう。と言われましたが、醜い姉を断り美しい妹だけを選んだのです。これにより後の天皇家の命の永遠性は失われたのだということです。

参考文献
古事記

久多島の伝説

月野 祐子

日本三大砂丘吹上浜のある薩摩半島南薩は、数多くのパワースポットが存在します。その中のひとつ久多島の伝説を紹介します。昔、天智天皇のお妃に薩摩の国、開聞岳の麓から嫁いだとても美しく、又、賢い柳櫛姫という方がおりました。（天智天皇は大化の改新の中大兄皇子。都が滋賀の天津にあった頃の天皇で在位期間約3年）天皇が、姫ばかり大事にされるので、宮中の宮女達の中に、何とかして姫を天皇の側から除こうという者が現れました。悪口やいじめを受け、姫は仕方なく故郷の開聞へ帰る事になりました。天皇は、深く悲しまれましたが、それをお許しになりました。帰る途中、南薩の沖で産気づかれましたが産まれた皇女は死産でした。皇女の死体を乗せた舟が漂着したのが永吉村で、村人達はその死体の様子から高貴な方であろうと崇め、久多島にその霊を祀ったという民話が残っています。

久多島は、現在の日置市吹上町永吉の沖合12kmに浮かぶ無人島。高さ29m、周囲1380mのくじらの形に似た石の島です。対岸の永吉天昌寺には、久多島神社が作られ神社の屋根には菊の御紋も見られます。

年に数回、久多島の裏に夕日が沈み御光がとても美しい姿を見せてくれます。昔は、大小数隻の舟で神輿を運び神楽を奏でながら、開聞岳が見えるまでしゃべってはいけないという島に渡る祭礼がありましたが、現在は残念ながら行われていません。

近年は、元旦の朝、久多島神社で吹上青松太鼓の元気な演奏が行われ、又、海岸で潮汲みをする時は久多島を拝み霊山である野間岳を拝み、金峰山を拝み一年の無事をお祈りできる地元では大切なパワースポットなのです。

参考文献
吹上の民話（増田逸彦）、吹上郷土誌

さつまから全国へ ～さつまいもの普及～

三宅 康郎

歴史

1. さつまいもの原産地は中南米です。そこから世界各地に伝播したルートは3つあります。①クマラルート：南米からポリネシアに伝わった経路②バタータスルート：スペインの探検家達がヨーロッパに広めた経路③カモテルート：メキシコのアカプルコからグアムを通してフィリピンへ伝播した経路の3つです。
2. バタータスルートでインド洋を経由して16世紀に中国まで達し、17世紀初頭に多くの人々がさつまいものを沖縄から日本本土に持ってきた記録がありますが、栽培された記録としては、種子島の島主久基が1698年沖縄から持ち帰り栽培したのが最初です。久基は家老の西村時乗に栽培を命じました。時乗は現在の西之表市下石寺の篤農家の大瀬休左衛門に栽培させ、試作に成功しさつまいもの普及に貢献しました。この他、久基は飴、粉、菓子など食べ方にも工夫させ2年から3年で種子島全島に広まりました。種子島には1805年の大飢饉後に流行したと伝えられる唐芋奨励の数え唄があります。前田利右衛門は現・山川町岡見ヶ水の漁師で、1705年、沖縄に渡りさつまいもの種いもを持ち帰り、自ら畑で栽培し、近所の人々に分けて与えたところ、近隣地域に広がり、藩に広く普及する礎となりました。現・指宿市山川町徳光に徳光神社が建てられ、また、徳光神社の縁起として「からいもの神」（紙芝居）が残されています。県下各地に広まったさつまいもは、瀬戸内の大三島、長崎、京都、島根などに伝播し関東地方では、青木昆陽が「蕃諸考」を著し、普及に貢献いたしました。鹿児島県は、火山灰土壌で、台風、干ばつの常襲地帯であり生産性も低いことから、さつまいもが急速に広まった背景には、多くの農家の技術確立へのたゆまない努力があったものと考えます。

参考文献

サツマイモ事典：(財)いも類振興会、さつまいも小事典：さつまいも伝来300年記念イベント鹿児島県実行委員会

日本各地へのサツマイモの広がり年表

西暦	導入関係者	伝来地	由来地	西暦	導入関係者	伝来地	由来地
1605	野國總管	沖縄(琉球)	中国(福建省)	1735	青木昆陽	関東(東京・千葉)	薩摩
1618	砂川親雲上旨屋	宮古島	中国	1735	(漁夫)	高知(土佐)	薩摩
1611	(薩摩兵)	鹿児島(薩摩)	琉球	1751	吉田弥右衛門	埼玉(川越)	千葉(上総)
1613	(ボトガル人)	鹿児島(坊津)	ルン(フィリピン)	1757	嶋利兵衛	京都(南山城)	長崎(杵岐島)
1615	Wアガラ(イギリス人)	長崎(平戸)	琉球	1757	長浜平吉	鹿児島(十島村)	琉球
1615	鼎山和尚	和歌山(紀伊)	薩摩	1766	大沢権右衛門	静岡(御前崎)	薩摩
1620頃	(島伝いに北上)	鹿児島(奄美)	琉球(沖縄諸島)	1825	川村幸八	宮城	千葉(下総)
1692	江島為信	愛媛(伊予)	宮崎(日向)	1834	関沢六左衛門	北陸(加賀)	薩摩
1698	種子島久基	鹿児島(種子島)	琉球	1856	田中宮門	山形	新潟
1705	前田利右衛門	鹿児島(山川)	琉球	1865	(漁夫)	長崎(五島)	薩摩(沖の島)
1711	下見吉十郎	愛媛(大三島)	薩摩(伊集院)	1868	松木五郎	滋賀(伊吹)	愛知
1715	原田三郎右衛門	長崎(対馬)	薩摩	1870	吉田信敬	岩手	関東
1732	井戸正明	島根(大森)	薩摩				

(考証不十分のものを含む各種資料から作成)

平家一門の薩摩下り

三原 健志

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者心衰の理をあらわす。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。平家物語の有名な冒頭部です。

「重盛の嫡孫」

維盛は西国落ちのあと、ひとりだけ戦列から抜け出し熊野灘で入水、幼い六代は通照寺近くの菖蒲谷に隠れていましたが、北条時政に捕えられ神護寺文覚上人のとりなしで一命をとりとめました。六代は妙覚と改め後に高清と名乗ります。後に謀反を恐れた頼朝に相模の国田越川の川原で殺されます。妙覚の一子次郎を祢寝南俣院の院司に発令、これが祢寝家初代の清重です。初代清重より四代までは佐多の高城城に五代清治は祢寝に移り南谷城を居城としました。八代清有は大祢寝鹿屋院の地頭職となりました。九代久清は肝付氏伊藤氏と並んで大隅の大半を庄しました。十七代重張の時に吉利へ移封、二十四代清香の時に小松姓へ改姓、二十九代に肝付家からの養子となる小松帯刀が登場します。しかし十九代、二十代と島津家久公の男が養子となるのでこの時点で平家の嫡流は絶えてしまうのです。

「安徳天皇」

壇ノ浦から逃れた安徳天皇と資盛ら平家一門が硫黄島に到着したといわれています。黒木御所跡や安徳帝墓所があり安徳天皇の子孫という「長濱家文書」が保存されているといわれています。祖父清盛に流された俊寛の鬼界ヶ島に孫の安徳天皇が逃れたとは因果応報か。中村勘三郎歌舞伎上演記念の俊寛立像が悲壮な雄叫を挙げています。

「青葉の笛」

一の谷の合戦で戦死した平敦盛が所持した青葉の笛、その原材料である台明竹は、現在の霧島市国分にある、かつての台明寺こと日枝神社の境内にゆかりがあります。また、それは、宮廷への献上品でありました。青葉の笛は鳥羽院から平忠盛、経盛、敦盛へと親子三代に相伝されます。青葉の笛は明治39年尋常小学唱歌「敦盛と忠度」の表題で後に「青葉の笛」となります。

参考文献

平家物語、幻の宰相 小松帯刀、鹿児島県の歴史散歩、能楽ハンドブック、日本唱歌集

平家の落人伝説と鹿児島

今村 隆久

平成24年の大河ドラマの影響もあり平清盛が注目されていますが、壇ノ浦の戦いで敗れた平家の人々が、落ち延びてきたと言われる場所が、鹿児島では各地に見られます。このうち、南九州市川辺においては、高さ約20メートル、長さ約400メートルの岩壁に平安時代の終わり頃から明治時代にかけて彫られた「清水磨崖仏群」があります。梵字や五輪塔、供養塔、仏像等が約200体残されており、平家の落人が先祖を供養するために彫られたと伝えられています。このような熱心な仏教の信仰の影響もあり、現在、南九州市川辺では仏壇の製造が盛んです。「川辺仏壇」は伝統的工芸品として、国から指定を受けています。また、十島村の平島は、名称のとおり平家の落人が流れ着いた地とも言われています。さらに南の加計呂麻島の諸鈍集落においては、平清盛の孫に当たる平資盛が敗残の心を自ら慰めるために地元の住民も引き踊りの宴を催し、この時に見た踊りが原形となり演じられるようになったと言われる「諸鈍シバヤ」が国指定の重要無形民俗文化財となっています。

日本一長く続いた大名島津家

岡本 昭雄

初代忠久公から29代忠義公まで、武家社会の始まりから終わりまで武家として約800年続いた全国でも稀有な大名家です。この島津家にも4つの大きな危機がありました。①7代元久公から8代久豊公への引継ぎ（奥州家と総州家の内紛）②本宗家14代勝久公から伊作家出身15代貴久公への代替り③関ヶ原合戦後の徳川幕府との対立・講和④幕末から明治への過渡期（新制度への切替）。

その中で②と③が大きいものと思います。②は戦国時代、下克上の頃に島津家でも勢力争いが激しかったのです。この時は有力分家伊作家から英知に長けた日新斎（忠良公）が他分家を抑え実権を譲り受け伊作家がその後の島津宗本家となっております。③の時は、義久・義弘・忠恒3者の思惑や考えの違いもありましたが、義久公を中心に粘り強い交渉のすえ領地まで安堵されております。

このように幾多の危機をのりこえてきた島津家、その特徴として①守護時代から転地、転封していない。②当主に他家（藩）からの養子がきていない。③御一門家をはじめ各分家が領地の要所を治めていた。④公家や幕府と柔軟な関係を保ち、徳川時代には將軍家から正室を受入れ、2人の御台所を輩出し、そのうち1人は分家出身であります。このうち、島津家における分家の存在は重要であったと考えられます。御一門四家（重富家、加治木家、垂水家、今和泉家）や一所持の分家（ともに一万石以上の石高）は、藩の要職を務め、藩政へのアドバイスを行ない、一所持家等からは藩主を補佐する家老職を出しております。

桂庵玄樹と大学章句

江藏 一成

高校で日本史を習った方は、室町時代の禅僧である桂庵玄樹（けいあんげんじゅ）の名前を授業で聞いたことがあるかもしれません。桂庵玄樹は今から約六百年前に周防国（現在の山口県）で生まれ、若い頃は京都の南禅寺で修行をした臨済宗聖一派の禅僧です。その後、四十歳で明王朝下の中国に渡り、朱子学を修めて七年後に帰国しました。朱子学は南宋の人である朱熹が唱えた学問で、封建社会を支える理論的支柱として近代国家になる前の中国・朝鮮・日本では長い間主流となった学問です。朱子学を修めて帰国した桂庵は、応仁の乱で荒廃していた京都には帰らず、各地の有力大名等の招きに応じて石見（島根県）豊後（大分県）肥後（熊本県）などを転々として各地で朱子学を教えました。

薩摩には島津家11代忠昌の招きで訪れ、島津氏やその家臣たちに朱子学を教えました。そして薩摩に来て三年後の1481年に「大学章句」という本を、島津忠昌の家老であった伊地知重貞とともに薩摩で出版しています。この「大学章句」は日本で始めて出版された朱子新註の本とされていますが、残念ながら現存していません。このように桂庵が薩摩で朱子学を広めた結果、その学問を継承した人々は「薩南学派」と呼ばれました。南浦文之はそのひとりです。薩摩で朱子学を広めた後、桂庵は再び京都に戻り建仁寺の第139代管主に就任しました。しかし、晩年には再び鹿児島に戻り、現在の伊敷に住んで1508年に81歳で亡くなりました。よほど鹿児島に愛着があったのかも知れません。

桂庵玄樹が晩年を過ごした伊敷には、桂庵公園があり、その一角には桂庵の墓もあります。この墓の横には江戸時代の高名な朱子学者である佐藤一斎の碑文もあり、昭和11年には国指定の史跡に選ばれています。所在地は鹿児島市伊敷2丁目18番地です。

参考文献

鹿児島市の史跡めぐり・三訂版（鹿児島市教育委員会）、鹿児島県謎解き散歩（新人物往来社）、日本史人物辞典（山川出版社）



島津家久京都旅日記

月野 祐子

島津家久は、父に本家15代貴久、兄に16代義久、17代義弘を持つ島津四兄弟の四男として亀丸城にて誕生しました。一人だけ側室の子で、兄達と歳が離れていましたのでやんちゃで無鉄砲でしたが、祖父日新斎忠良に「家久は戦法戦術に妙を得ている」と評されたように15歳での初陣以来めざましい活躍をみせていました。1575年家久27歳の時「島津家の快進撃は神々の御加護の賜」と考え自ら志願し京都の神社や伊勢参りの旅に出かけました。

薩摩の串木野を出発、太宰府天満宮、巖島神社など数多くの神社に参拝しながら京都へ入りました。連歌師の屋敷に宿泊しながらの京都見物。鞍馬寺では、島津の祖、源頼朝の弟義経の修業の場で思いを馳せ、六波羅蜜寺では、仏師の名作を細かく熱心に拝見。東福寺では、通天橋を渡り僧堂の天井に名筆の龍有りと日記に書き残しています。又、織田信長が大坂の戦から2万の軍勢を引き連れ相国寺の宿へ戻ってくる姿を見て感嘆。三十三間堂においては伊勢参り、前後2回も参拝しています。奈良から大坂へ入り初代忠久の生まれた住吉大社へ参り、鳥根の出雲大社参拝、石見銀山も見学し、長崎九十九島を回って約4ヶ月の旅を終えました。

日記からは子供のように感動する純粋な心と鋭い観察力をもった、感性豊かな家久の魅力が伝わってきます。各地の情勢を見て、数多くの文化人、経済人、武将と逢い、時には明智光秀に茶会に呼ばれ作法を知らずに恥をかいた事など、多くの経験もし見識を広めることが出来た家久は、更に精進し文武共に力をつけていきます。島津の九州統一に向けての活躍は目覚しく九州征伐に来た豊臣秀長に41才で毒殺される（といわれている）まで九州最強の武将だったと言っても過言ではないでしょう。なのにその名があまり知られていないのは、島津四兄弟の四男としての役割を謙虚に果たしたからだと思います。

参考文献

島津中務大輔家久一代記 山下正盛 永吉南郷会、家久君上京日記、破天の剣 天野純希



日本最強、島津軍団

川畑 登

室町時代後期から安土・桃山時代にかけて戦国大名が群雄割拠するなか、南九州という辺境の地にいたがためにその強さをあまり知られていない軍団がありました。島津義久・義弘・歳久・家久の「島津四兄弟」を中心とした島津軍団でした。

南九州を統一した島津軍は「木崎原の戦い」で日向の伊東氏、「沖田畷の戦い」で肥前の龍造寺氏、「耳川の戦い」では豊後の名門・大友氏を撃破し、全九州統一も目前でした。しかし、天下統一を目指す豊臣氏の大軍に屈し、薩摩・大隅と日向の一部のみを領することになります。

島津軍の強さを天下に轟かせる出来事として、豊臣秀吉による第二次朝鮮出兵「慶長の役」があります。島津義弘が守備する泗川城へ押し寄せた明の大軍（一説には20万人ともいわれる）をわずかな軍勢で打ち破り、明軍から「鬼石曼子（鬼島津）」と恐れられました。

そして、最も有名なのが「関ヶ原の戦い」における敵中突破（島津の退き口）です。会津の上杉景勝を討つべく、徳川家康が上方を留守にした際に石田三成が挙兵したとき、島津義弘は家康との約定により伏見城の留守を預かる家康の家臣、鳥居元忠に入城して共に戦おうと申し入れましたが拒絶されます。そうなれば西軍の真ただ中にある上方では石田三成の要請で西軍に味方せざるを得ない状況でした。領国から遠く離れた義弘はわずかな手勢しか持ち合わせておらず、国元に援軍を要請しましたが前太守義久はこれに積極的に応えようとはしませんでした。それでも義弘を慕う有志が個々に上京し、なんとか1500人程の軍容を整えましたが十分な兵力とはいえませんでした。西軍のなかでは屈指の百戦練磨を誇る義弘でしたが、石田三成は前哨戦では義弘の夜襲の進言を受け入れず、島津勢をおきざりにして退却するなど義弘を重用することはありませんでした。これにより関ヶ原の決戦時、島津勢は当初傍観していたといわれます。戦いは小早川秀秋の裏切りにより西軍は総崩れとなり、最後に西軍で唯一残った島津勢は背後ではなくあえて前面への撤退を敢行しました。1500人から半数近くに減っていた兵力で約7万人の東軍に挑みかかり、その猛烈さは家康の四男・松平忠吉や徳川四天王の一人、井伊直政などを負傷させるほどでした。全軍が義弘を薩摩に生還させることのみを考え、甥の島津豊久や家老の阿多長寿院盛淳らが義弘の身代わりとなるなど命を捨てて殿軍（しんがり）を務め、薩摩へ帰れた将兵はわずか80人程であったといわれます。

このように、たとえ負け戦であっても死を恐れず、最後の一兵となるまで主君を守り戦い抜く、これぞ日本最強軍団のひとつといっても過言ではないでしょう。

参考文献
学研「歴史群像シリーズ」裂帛 島津戦記

歴史

昆布に魅せられたプロジェクトの取組み

水之浦 敦

江戸時代後期、薩摩藩は財政危機に瀕していました。宝暦治水、所謂「お手伝普請」による多額の出費が最大の要因ですが、時恰も国内海運の急速な発達により、薩摩藩でも北の海産物をより早く入手出来るようになっていました。その中心的役割を担ったのが越中（富山県）の売薬商人集団「薩摩組」でした。彼らは自らの利権を守る為薩摩藩へ昆布を献上していましたが、薩摩藩ではこれら献上昆布以外にも大量の昆布を買付、琉球を通じて中国との交易を盛んに行っていました。第28代島津斉彬公は、富国強兵・殖産興業の取組の一環として昆布の養殖も行っています。公の事蹟を記した「島津斉彬公言行録」には、「昆布ハ箱館ヨリ種石御取寄相成り、櫻島ノ各所ニ種ラレシカドモ生育セズ」とあります。私は数年前「昆布ロードと越中」という本に記されていた江戸時代の昆布事情に強く心を打たれました。

斉彬公が実現し得なかった昆布の養殖を成功させるべく各地を訪れ調査しました。そして、薩摩川内市下甕町手打にある「こしき海洋深層水（株）」のご協力の下、平成22年11月に強化プラスチック製の大型タンクに冷たい海洋深層水を注し昆布を栽培するという方法で昆布の陸上養殖プロジェクトがスタートしました。南国での昆布養殖は水温管理が最大のポイントでしたが、苦労が実り2年がかりで見事に成功し約200kgを収穫しました。収穫した昆布は、ギネス記録で世界最大とされる桜島大根とのコラボ商品として、その名も一島津斉彬公の夢昆布入「桜島大根割干漬」で斉彬公ゆかりの「仙巖園」で華々しくデビューし、県内外の多くの観光客から大好評を得ました。

夢を追うことの大切さ、そして情熱を持ってチャレンジするプロジェクトの姿は、160年前斉彬公がリードした集成館事業に携わった当時のスタッフの活躍とも重なり、熱き薩摩の血を感じる取組みとして多くのマスコミの取上げるところとなりました。

参考文献

「昆布ロードと越中」、「島津斉彬公言行録」



見事に育った鹿児島県産昆布



県新加工食品コンクールで優秀賞を受賞

鹿児島県のいも侍

久木野 政和

鹿児島には武士階級の人が大勢おり、その9割弱の武士が地方に居住する郷士と呼ばれる人達でした。なぜ誇りを持っている武士が“いも侍”、などと言われ軽視されたのでしょうか。その理由を紐解いてみたいと思います。

1. 薩摩藩には武士がどれほどいたのでしょうか？

明治時代には、四民平等になり戸籍上は華族、士族、平民の族称がつき、当時の資料によると鹿児島県は士族26%、平民74%の割合でした。しかし、他県における平均的な士族の割合5%に比べて約5倍であり、武士の占める割合が極端に大きかったのです。

2. なぜ武士が多かったのでしょうか？

薩摩藩の藩主であった島津氏は、鎌倉時代より約七百年続いた大名であり、薩摩、大隅、日向、そして九州制覇までもしようとしました。相応な数の武士を抱えていましたが、豊臣秀吉の島津征伐で領有地を縮小され、結果として武士の数が過剰になったのです。

3. 過剰な数の武士をどこに居住させたのでしょうか？

藩主のいる現在の鹿児島市近郊に過剰な数の武士を居住させることは、お役目や藩財政状況などにより出来ませんでした。その為、9割の武士が地方に居住させられたのです。現在の鹿児島市近郊にいる武士は色々な面で恵まれ、城下士として誇りを持ち、やがて地方武士（郷士）を軽視するようになります。

4. 地方武士はどんな生活をしていたのでしょうか？

地方でもそれほど武士としての仕事はないため、武士が脇差を帯びて農作業を行う半士半農の生活でした。そして次第に、“一日兵児”いも侍、などと言われるようになります。

5. 明治以降の士族はどうなったのでしょうか？

明治時代になっても武士階級には士族という族称がつき、特権意識は容易に消えませんでした。士族であることに誇りを持ち、平民となかなか和合しなかったのです。士族と平民との婚姻では夫婦喧嘩にも影響が現れます。妻「あなたは平民、わたしの所は士族よ」夫「何を言っている、いも侍の娘が」と、それは近年まで存在していた光景だったのです。

参考文献

薩摩民衆支配の構造（著者：中村 明蔵、発行所：南方新社）、伊集院郷土史（著者・編者：伊集院町、発行所：ぎょうせい）

危うし？岩永三五郎

鈴木 秀知

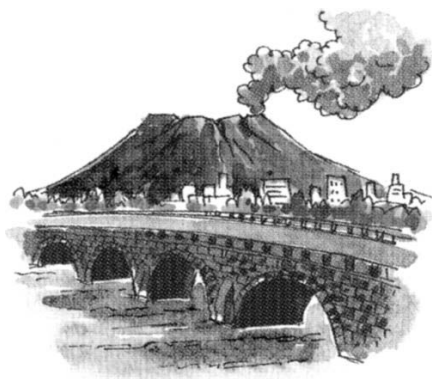
岩永三五郎は肥後の石工で、薩摩藩の天保改革のとき薩摩に招かれ、郡奉行見習の待遇で数々の土木事業にあたりました。なかでも、三五郎が架けた玉江橋、新上橋、西田橋、高麗橋、武之橋の五石橋は特に有名であり、彼の活躍は鹿児島におけるその後の石造文化興隆のさきがけをなしたといってもいいでしょう。

さて、その三五郎ですが、薩摩藩により暗殺されそうになった、あるいは暗殺されたという話が伝わっています。はたしてその話に信憑性はあるのでしょうか。暗殺の理由は、三五郎が薩摩藩の内情を知りすぎたためとも、石橋建造技術の漏洩を防ぐためともいわれます。暗殺について「だいたい大規模な土木工事には、こうした伝説は必ず生まれます」と原口泉氏。また、八代市にある東陽石匠館の上塚尚孝館長は「薩摩藩による暗殺ということはなかった。暗殺ということになればその後、薩摩藩と肥後藩との関係が悪化したはずであるが、その様子もない」と言います。熊本県葦北郡津奈木町に現存する重盤岩眼鏡橋は、三五郎とともに薩摩に招かれた弟の三平が追っ手に襲われ重傷を負ったものの津奈木の人々に看護され、その恩返しに架けたといわれていますが、これも伝承にすぎないようです。この石橋ですが薩摩藩が参勤交代で利用したこともありました。

三五郎暗殺の話は薩摩藩の当時の情勢とあいまって、フィクションの材料としては面白いかもしれませんが、信憑性はないと言えるでしょう。危うくはなかったのです。薩摩滞在約9年の間に数々の土木事業に貢献し、大きな足跡を残した岩永三五郎は薩摩から帰った2年後の嘉永4年（1851年）に現在の八代市鏡町で没しました。59歳でした。

参考文献

「河頭太鼓橋の歴史的意義と岩永三五郎」(原口泉土木史研究第17号)、「我が国の石造アーチ橋の発展と岩永三五郎、阿蘇鉄矢の事跡」(逃目英正、長谷場良二、奥田朗、吉原進、土木史研究第17号)、石橋記念館展示資料、東陽石匠館展示資料、「肥後の石工」(今西祐行著実業之日本社)、「石橋は生きている」(山口祐造著葦書房)、熊本県、津奈木町それぞれのホームページ、ウィキペディア、聞き取り 上塚尚孝(東陽石匠館館長) 岡松莊一郎(津奈木町誌執筆者：近世担当)



西郷隆盛も読んだ明治維新の頃の漢文の聖書

古市 吉男

西郷隆盛が聖書を読んでおり、2冊の漢文の聖書を持っていたことは側近の証言で分かっていましたが、当時の聖書がどんなものであったか長年不明でした。それを西郷南洲顕彰館の高柳毅館長が、昭和57年に突き止めました。

一つは、1864年（文久3年）に上海でアメリカの教会が出版した「新約全書」と「旧約全書」です。もう一つは、1865～'66年（元治元年～慶応2年）に香港でイギリスの教会が出版した「旧約全書」と「新約全書」です。いずれも黒い皮表紙で厚さ10cmぐらいの豪華本です。内容はほとんど同じですが、キリストの呼び名が上海版では「天帝」、香港版では「上帝」となっています。

西郷南洲顕彰館には、上海版の旧約聖書が展示されています。明治新政府の役人たちが、キリスト教の布教解禁を検討した際に手に取ったと思われる聖書がどんなものであったか、ぜひ一度見ていただきたいものです。



蘇松上海美華書館の「旧約全書」
写真：西郷南洲顕彰館蔵

参考文献

（財）西郷南洲顕彰会機関誌「敬天愛人第14号」、西郷南洲顕彰館協力

西郷隆盛は実は三度島流しにされていた

今井 征男

月照との入水事件の後奄美大島に、下関事件で久光公の勘気に触れて沖永良部にと、二回はよく知られているところですが、実はもっと若き日に流罪で奄美に流されていたのです。嘉永3年（1850年、23才）西郷は今の下田町辺りにうさぎ狩りにかけています。夕暮れになって明かりとり林に火を放って下山したというのですが、麓に着いた頃には山火事になっていたということです。しかもたまたま禁猟区であったことで、切腹ものの重罪であったのですが、二才（にせ、若者）達のリーダーということもあって斉彬の温情で奄美への遠島となりました。遠島は1年9ヶ月に及びましたが、その間に、密命をおびて台湾に渡っています。欧米列強が東進策に乗り出しているのに対して台湾を拠点にという考えに基づいて、状況の探索であったろうと思われます。一応鎖国ですから、罪人の西郷は都合がよかったと思われます。この事を疑問視される方もいらっしゃるが…

参考文献

高柳毅執筆「敬天愛人19号」

西郷隆盛の長男が台湾にいた

今井 征男

最初に奄美大島に島流しになった時、西郷は藩からの台湾情勢の探索の密命に従って、嘉永4年台湾宜蘭県南澳に上陸します。港近くの網船屋を拠点に探索を行っていましたが、その娘とねんごろになってしまいました。役目は半年余りで終え西郷は帰国しますが、その後男子が誕生したという。名前は母親によって呉意と名付けられました。西郷はそれを知っていたそぶりが見受けられます。後に奄美大島で愛加那との間に生まれた長庶子菊次郎の名前について、愛加那が、長子なのになぜ次郎とつけるのかと尋ねた際、実は・・・と打明けたという。また後にたまたま西郷菊次郎が宜蘭県支庁長（県知事）として赴任中、妻の聞き込みにより探し出し、数度対面していたといいます。漁夫を業としており、その子は亀力といい、亀力には子がなく、その後の消息はわからない。という信憑性の高い話があります。

参考文献

高柳毅執筆「敬天愛人19号」、台湾宜蘭縣設治館館長李氏談

西郷の愛犬ツンは東郷町の百姓の犬だった

横山 真由美

鹿児島県薩摩川内市の東郷町にある藤川天神は、臥龍梅と呼ばれる地面をはうような美しい梅で有名です。

西郷隆盛が、ここを参拝した時、ツンという名の薩摩犬に出会いました。東郷町藤川の前田善兵衛が飼っている犬でした。ツンは狩りが得意で賢く、主人に忠実な犬でした。西郷さんは大変気に入り、ツンを譲って欲しいと頼みました。

飼い主は断りましたが西郷さんはあきらめきれず、土地の権力者、三原隼人に頼んで話をしてもらい、ツンを譲ってもらいました。西郷さんは喜び、三原には愛馬1頭を与え、前田には金20貫を与えました。

犬好きの西郷さんは、その頃犬を10匹程飼っていました。ツンは西郷さんにかわいがられましたが、最初のご主人を慕い、鹿児島から50kmも離れた東郷町まで、2度も走って帰ったそうです。

ツンが生まれご主人と楽しく散歩した所、そして西郷さんと出会った藤川天神には、ツンの銅像が建てられています。

参考文献

鹿児島県薩摩川内市東郷町の藤川天神に建つツンの銅像の碑文より

鹿児島にゆかりの銅像ア・レ・コ・レ

今村 隆雄

江戸時代宝暦年間木曾三川の治水工事の総奉行を務めた平田朝負の銅像が鹿児島市平之町の平田公園に建っています。朝負の祖先は15代当主島津貴久公の家臣でした。貴久公が逝去されたことを悲しんだ平田純貞は菩提のため、全国を回ったあと、海へ投身し殉死しました。この時の純貞の歯はなくなっていたそうです。この純貞の歯を祭った神社が貴久公を祭神とする松原神社の境内に在ります。毎年6月4日の虫歯予防の日に歯科医院の関係者が集まり供養祭を行っています。朝負の子孫が現在も鹿児島市に於いて歯科医院を開業中です。歯の神社は松原神社の社殿の奥の敷地に在り鉄格子の扉に施錠してあります。

天保山公園に建つ調所広郷の銅像について、10代藩主（27代当主）斉興公の命に依り調所は脇差を差していませんでした。その理由は薩摩藩に対する密貿易等の幕府の疑いを晴らす為調所本人が1人で責任を負って切腹するおそれがあったからです。最後は服毒自殺をしました。武士の作法として切腹のときは脇差を使うことになっていて、長刀は使いませんでした。忠臣蔵でも脇差で切腹しました。

東京の渋谷駅前に建つ忠犬ハチ公の銅像について、作者は山下町の西郷隆盛像を制作した安藤照です。安藤照は加治屋町の市立病院の敷地内で誕生しました。現在のハチ公の銅像は2代目で、安藤照の息子さん（安藤士）の作品です。初代のハチ公の銅像は戦前の金属供出令に依り弾丸になって飛んでいきました。ハチ公も太平洋戦争の犠牲になりました。

大久保利通は西南戦争の翌年明治11年5月14日東京紀尾井坂清水谷で馬車で内務省へ出勤途中石川県士族島田一郎らにより暗殺されました。高見橋の袂に建つ銅像の足下の見えにくい場所に事件当日の馬丁と馬の小さな銅像が安置されています。もと本県知事の鎌田要人氏による大久保利通の揮毫は通の部分は何故か歪んでいます。噴水の前にお立台を作り、案内板を設置すると新しい観光スポットになります。

参考文献

新聞、テレビ、講演、映画、現地調査等



二代目忠犬ハチ公銅像と筆者



調所広郷像



大久保利通像



平田朝負像

人吉陥落後、西郷軍は県内を転戦した

内山 憲一

明治10年2月に勃発した西南の役は、熊本県・鹿児島県と大分県で戦われました。その中で西郷隆盛の軍は田原坂等での敗戦後、人吉・小林・宮崎と転戦し、延岡で最後の戦闘に敗れ、ついに軍が解散されます。西郷隆盛と6百人程の兵が九州山地を抜け、半数程に減って城山へ戻り、9月24日に最期を迎えます。西郷の軍は人吉陥落後ほとんど「鹿児島県内」を転戦しました。それは現在宮崎県となっている地域が、当時すべて鹿児島県に併合されていたからです。

明治9年8月明治政府は宮崎県を鹿児島県に併合しました。これは私学校を中心に独立国の様相を呈していた鹿児島県の状況を、併合によって少しでも改善しようという意図でした。ところが状況は変わらず、翌年戦争が起き、旧宮崎県の各地でも大きな戦争被害を被ってしまう結果となりました。その後も鹿児島県は現在県として最大の面積の岩手県よりも広かったため、旧宮崎県の北部から鹿児島市まで三日もかかり、また鹿児島中心の行政が行われたため、地域発展の大きな障害となりました。

このような状況を改善しようと、旧宮崎県側から独立運動が起こり、ようやく明治16年5月に独立しました。

私は西南の役から130年の平成19年に、可愛岳（えのだけ）を越え城山に戻るまでの道程を辿りました。出発点の可愛岳麓の長井村（現延岡市）にある資料館を始め、宮崎県内には西南の役に関連する石碑などが各地に見られましたが、鹿児島県内には霧島温泉駅付近に石碑がある位でかなり見劣りしました。これは鹿児島人の熱し易く冷め易い性格が背景にあるようで、残念に感じます。大きな被害のあった宮崎県で、戦争の歴史を後世に残す努力が見られるのとは対照的です。

歴史の表と裏の両面を見て深く理解することは、地域間・国際間に拘らず様々な局面で重要なことだと考えます。

参考文献

浅井健爾『知らなかった！驚いた！日本全国「県境」の謎』（実業之日本社）



宮崎県の飯干峠に建つ「西郷隆盛退軍之路」の石碑

小松帯刀は若くして大藩薩摩藩の全権を握っていた

今井 征男

薩摩藩の隣藩相良藩の城下町人吉が大火にみまわれ、人吉城も焼失してしまいました。復旧を急ぐ相良藩は一万五千両を借用すべく熊本細川家へ出向きましたが、けんもほろろ断られて悲嘆していたところ、たまたま大坂商人から一万両調達でき、後の五千両は薩摩藩にでき得る限りお願いして、残りは思案しようと出向きました。この仔細を取次に話し、出てきたのは若造で、ああ代理かと諦め顔で聞いていたところ、「それがしが当藩の家老小松帯刀でござる。」と言われ、こんな若い人が家老かと感じ入ったところに、「五千両で宜しいのか、不足ならばいつでも」と即答され、いよいよ感じ入ったという話が残っています。

吉利郷一所持の領主小松帯刀が本藩の家老になったのは文久2年28才の時です。

そして兼務したのは、勝手方（金繰り、予算係）、御軍役掛、琉球掛、琉球産物掛、御製菓掛、唐物取締掛、造士館掛（教育）、演武館掛（武芸）、御改革方（企画）、御内用方（島津家事）、佐土原掛、蒸気船掛（交易・軍輸送）などで、薩摩藩の軍備、教育、経済、交易、予算を一手に引受けていたのです。西郷、大久保といえども小松の支えがあったればこそであったのです。

参考文献

瀬野富吉著 「幻の宰相小松帯刀」

小松帯刀は粋な男だった

今井 征男

明治維新の功労者小松帯刀は一方で粋な計らいした逸話が残されています。

よく知られた話では、藩の軍艦で坂本竜馬はおろか、おりょうさんまで鹿児島に連れてきています。当時薩摩では女性が軍艦に乗るなどは考えられないことでしたでしょう。そして霧島に日本初めての新婚旅行に招待しています。

それより遡ること、勝海舟によって開かれた神戸海軍操練所が閉鎖され、困った塾頭坂本竜馬は塾生38名共々西郷、小松に行く末をたのみます。小松は浜崎太平次の商船に乗船させることを念頭に鹿児島に案内します。ある日実際に商船群を見せようと山川に海路連れていきます。当時指宿、山川の地頭は小松帯刀ですから大歓迎を受けます。指宿摺ヶ浜の浜崎太平次の豪邸内の殿様風呂に入り、泊まりは山川の日本一ともいわれた遊郭「東海楼」でどんちゃん騒ぎをして楽しんだという。実はここから亀山社中の話が出て、海援隊と続いて行くのです。

参考文献

瀬野富吉著 「幻の宰相小松帯刀」

薩摩に産声をあげた日本の洋式紡績工場

島津 登志子

幕末の薩摩藩主島津斉彬は、開明的な先見性を持った人物でした。また、人材の育成にも優れ、西郷隆盛を始め多くの人々がその影響を受けました。

斉彬は指宿の豪商浜崎太平次から西洋糸を贈られ、その精巧さに驚きました。これは将来我が国の産業を脅かすものだと気付き、紡績業の振興に力を注がなければと考えました。そして1856年、我が国の機械紡績のさきがけとも言える郡元水車館を建設します。同時期、その学才をかわれ薩摩にやって来た大和出身の蘭学者石河確太郎は、のちに薩摩藩士として取り立てられ、斉彬から紡績業の重要性を教えられました。斉彬は志半ばにして、1858年亡くなってしまいますが、その思いは多くの人々の胸に引き継がれていったのです。

1863年、薩英戦争で薩摩藩は西洋の力を痛感します。石河は、斉彬の遺志を継ぎ近代紡績工場の建設や、英国への留学生派遣を建言しました。英国留学に同行した五代友厚等は英国で当時世界最大の紡績機械メーカーブラット社より紡績機械一式を買い入れ、工場の設計と英国人技師の招聘を要請しました。1867年、遂に我が国初の洋式紡績工場が、鹿児島県の磯地区に操業を開始したのです。日本の紡績業は、鹿児島、堺、鹿島の始祖三紡績から始まったといわれますが、堺紡績所も鹿児島島の支工場として成立したものです。石河が建設にあたり、鹿児島では英国人によってなされた技術指導は、鹿児島島の技術者や職工によって行われました。明治10年代、次々に建設された紡績工場には、必ずといって良いほど石河が関わり鹿児島からの技術指導者が彼を助けています。また、これらの工場の多くは動力に、鹿児島の水車製造技術による水力を使っています。

斉彬の夢はその翼を大きくひろげて、日本の近代化に貢献していったのです。

現在、鹿児島紡績所跡地周辺は、世界遺産登録への実現が期待されています。

参考文献

島津斉彬の挑戦 尚古集成館 春苑堂書店



「紡績百年の碑」

集成館事業を支えた吉野台地の関連遺産

水之浦敦

2009年1月5日、鹿児島市の磯にある「旧集成館」などが「日本の近代化産業遺産群－九州・山口及び関連地域」としてユネスコの世界遺産暫定リストに記載されました。これらの遺産群は、その名の通り九州・山口の各県に広く分布しているのみならず遠くは静岡・岩手県などにも及び、時代も幕末から明治・大正・昭和と長きに渡り現在も稼働しているものもあります。ここでは、「旧集成館」の事業について考えてみました。

28代島津斉彬公の始めた集成館事業は「自力による近代化」への取組みそのものであり、造船・造砲事業の為に溶鉱炉・反射炉や砲身に穴を穿つ鑽開台などが造られました。これらの事業を支えたものが吉野台地に今もひっそり残っていることはあまり知られていません。それは、集成館事業のエネルギーに関連する遺構で、1つは動力である水車を動かす為に引かれた吉野疏水溝の原点「下田関吉の疏水取水口」であり、もう1つは、工場の燃料となる良質の木炭（白炭）を製造した「寺山の炭竈跡」です。実は、吉野疏水溝は集成館の為に造られたものではなく最初は江戸中期の享保7年（1722年）に磯邸の用水として造られました。後に、集成館事業の用に供する為途中の吉野町雀ヶ宮から工場群へストレートに水が引かれました。また、寺山炭竈は紀州熊野に技術者を派遣し備長炭の製造技術を学ばせこの寺山の地でカシヤシイなど堅い木を使い白炭を作ったとのことでした。

先頃、前ユネスコ事務局長で日本ユネスコ協会特別顧問の松浦晃一郎先生の講演で、先生は当該「遺産群」は世界遺産としての価値は充分あるとしながらも、関係機関や地元の方々が一体となり政府への働きかけ（予算措置）を行い、ユネスコの審査員へその歴史的意義や文化大国としての日本の取組みをしっかりとアピールすることが大切だと言っておられました。私達は、これら遺産群の世界遺産登録に向けて県民挙げて取組んで行くべきだと思います。

参考文献

「吉野史談21・26号」、「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（63）」



下田関吉の取水口と疏水起点付近



寺山炭竈跡と炭窯の碑

日本の資本主義を育てた人々

蜂須賀 修

1865年3月、申木野の羽島沖に、一隻の汽船が姿を現わしました。五代友厚等に乗せ総勢19名の留学生が、イギリスに留学しました。

五代友厚が、近代的な商業知識を身に付け主に大阪で、活躍した背景には、ヨーロッパで学んだ事が、十分生かされています。

松方正義は、鹿児島市の下荒田で生まれました。幼い頃から勉学に励み、両親を亡くしながらも苦勞し、大蔵省の商官になりました。

1881年、大蔵卿に就任した松方正義は、1882年、我国初めての中央銀行を作り、国民の銀行に対する信用を高める政策を打出しました。又、1926年、総理大臣となり金本位制度を確立し、日本の資本主義を、ますます発展させる事となりました。

この先人に共通するのは、幼い頃から、大きな志を持ち勉学に励み、時代の流れに乗り、大きな国家観を持ち、明治時代に現代の経済大国日本の基礎を作ったことです。

参考文献

鹿児島と明治維新（鹿児島県明治百年紀事業委員会）

新しい世紀を象徴する鹿児島の鉄道

古市 吉男

20世紀の夜明けを告げる鹿児島の象徴は、鉄道の開通と第七高等学校の開設でした。鉄道については、21世紀も新幹線の開業ではほぼ同様のことが言えるようです。

鹿児島の鉄道は、1901年（明治34年）に鹿児島駅～国分駅（現在の隼人駅）間が開通し、関門海峡を挟んで鹿児島～東京間が鉄道で結ばれたのは、その7年後のことでした。

21世紀の場合、九州新幹線が2004年（平成16年）に鹿児島中央駅～新八代間で部分開業し、7年後に全線開業して、鹿児島～青森間が新幹線で結ばれました。新幹線の開業に伴い、鹿児島中央駅一帯が大きく様変わりしたのも21世紀初頭の象徴的な出来事でした。その一環として、床次竹二郎の胸像は南の端の生け垣に移設されました。見つけて見てください。彼は鹿児島市出身で鉄道院総裁や鉄道大臣を務め、日本鉄道の父とも言われた人です。青少年に期待してこんな歌を残しています。

若人の立つべき時ぞ日の本の国のもとる（基）を打ち固むべく

参考文献

JR関係資料、かごしま検定公式テキスト

新世紀を象徴する鹿児島の鉄道

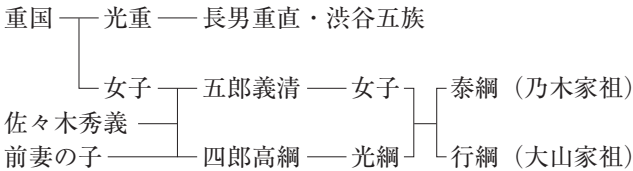
西暦	明治	鹿児島線(20世紀)	西暦	平成	九州新幹線(21世紀)
1901	34年	鹿児島～国分(隼人駅)開通 (新橋～横浜開通29年後)	2001	13年	
1902	35年		2002	14年	
1903	36年	国分～吉松開通	2003	15年	
1904	37年		2004	16年	部分開業(新八代・鹿児島中央) (東海道新幹線開通40年後)
1905	38年		2005	17年	
1906	39年		2006	18年	
1907	40年		2007	19年	
1908	41年	吉松入吉開通 (関門海峡を挟み東京まで開通)	2008	20年	
1909	42年		2009	21年	
1910	43年		2010	22年	
1911	44年		2011	23年	全線開業 (鹿児島～青森間新幹線連結)

注：鹿児島本線の全線開通は、1927年(昭和2年)

「坂の上の雲」を駆けるトロイカ

三原 健志

東郷平八郎・大山巖・乃木希典の祖先は姻戚関係でありました。相模の豪族渋谷光重が鎌倉幕府への勲功により北薩一帯の地頭を与えられ次男以下5人の子を薩摩に下向させました。次男実直（東郷家の祖）三男重保（祁答院）四男重諸（鶴田）五男定心（入来院）六男重貞（高城）いわゆる渋谷五族です。島津氏に滅ぼされ入来院家ののみが残ります。義久・義弘・歳久3兄弟の生母雪窓院は入来院重聡の女子です。大山・乃木との姻戚は渋谷重国の娘が佐々木秀義に嫁したことに始まります。系図にすると、



高綱は源氏宇治川渡河で先陣の名乗りで有名です。

「東郷平八郎」東洋のネルソン

日本海海戦の連合艦隊司令長官大将主席参謀秋山真之中佐、第2艦隊司令長官上村彦之丞中将、第3艦隊司令長官片岡七郎中将と司令長官全て薩摩出身、「海軍の薩摩」の偉容です。

「大山巖」黙して語らず将の将たる器

満州軍総司令部総司令官大将。第1軍司令官黒木為禎大将、第4軍司令官野津道貫大将は薩摩出身です。乃木は第3軍司令長官大将で、参謀長の伊地知幸介は大山巖の姪の婿であります。大山の後妻の山川捨松は会津藩家老の筋で、兄の山川健次郎は後に東大総長をつとめました。捨松は津田梅子らと十歳でアメリカ留学した才媛で、しかも美人であったことから鹿鳴館のスターになりました。東郷、大山が元師大将まで出世したのは郷中教育のお陰です。

「乃木希典」

静子夫人は薩摩藩士藩医湯地定基の娘です。静子を紹介したのは乃木の副官伊瀬地好就です。学習院長に任ぜられて末広ヒロ子が美人コンテストに優勝、乃木の逆鱗にふれ、放校処分になりますが、末広の稼ぎ先を探し、野津道貫の息子と結婚させました。清廉潔白な人柄は明治天皇に好まれました。乃木三絶の漢詩は有名です。

参考文献

東郷元帥一家伝記・東郷平八郎・大山巖・乃木希典・斜陽に立つ・「坂の上の雲」大辞典・薩摩の群像・土魂語り継ぐかごしまの教え集

日本の地域産業の基礎を築いた前田正名

古市 吉男

前田正名は、1850年（嘉永3年）に指宿市山川の漢方医の6男に生まれ、幼少期は鹿児島市小川町の知人宅に住み込んで勉強しました。14歳で藩の開成所、15歳から18歳まで長崎の語学塾に学び、19歳から27歳までフランスに留学しました。

帰国に際して果樹・野菜・花の種苗をたくさん持ち帰り、三田育種場長を務めました。

彼は、内務・大蔵・農商務の各省に勤務し、山梨県知事にも就任しています。また、産業興しに関する膨大な意見書を作成するなど、地域産業の振興に努めましたが、重工業を重視する政府の中枢と対立して、農商務次官を40歳で退官しました。その後一時、貴族院の勅選議員もしますが、すごいのは71才で亡くなるまで、なりふり構わず国内外を駆け回り、農業や地域産業の振興に力の限り奮闘したことです。茶業会、マッチ業会、木ろう業会、蚕糸業会、獣医会、酒造業会、貿易協会や五二会（織物・陶器・銅器・漆器・製紙と後で加わった彫刻・敷物）などの組織をつくりました。大日本商工会を結成して、初代会頭に就任したのは、44歳のときでした。

47歳のとき、単身渡米して、大統領や上・下院議員と会見し、関税の軽減を図りました。以後亡くなるまで、欧米視察は8回、滞在期間は述べ10年に及んでいます。

48歳からはすべての公職を離れ、宮崎県都城の開田事業や北海道釧路の製糸事業に取り組んだり、都城や鹿児島根占、福岡、大分、兵庫等にその土地の名を冠した「〇〇一步園」という農場を開設して、地域農業の振興に努めました。一步園という名は、彼が座右の銘とした「物ごと万事一步が大切」に由来します。

彼は、「前田家の財産はすべて公共事業の財産とす」という家憲を残しました。戦後の農地改革などを経て残ったのは、北海道阿寒湖周辺の約4,000haの森林でした。遺族は家憲を守り、財団を設立して寄贈しました。お蔭で、開発で荒らされることなく、阿寒国立公園の主要な大自然が残っているのです。

参考文献

祖田修著「前田正名」、(財)前田一步園財団資料、三州倶楽部「会報第84号」



北海道阿寒の前田公園に建つ前田正名の胸像
写真提供：財団法人 前田一步園財団



幼少期を過ごした八木屋敷跡（鹿児島市小川町19番地）
に建つ前田正名ゆかりの地碑

運動会の生みの親～初代文部大臣森有礼～

島津 登志子

鹿兒島出身の森有礼は、初代文部大臣として近代教育制度を作り上げました。今日では当たり前のように行われる運動会や、修学旅行も森の教育方針で始まったものです。

幕府の禁を犯し、薩藩英国留学生として渡英、明治になってからもアメリカ、イギリスで外交官として活躍した森は、明六社を結成し啓蒙運動も展開しました。

また私財を投じて商法講習所（現一橋大学）を設立、商法教育の先覚者でもありました。さらに女子教育の重要性を説き、女子教員を増やし幼稚者教育への女子の適正を説いた点は、以後の女子教育と女性の社会的地位向上に大きな影響を与えたといえます。明治8年には、男女同権の考えのもと、旧幕臣の娘広瀬常と婚姻契約書を結んでの結婚を果たします。しかし、理想論とのギャップでしょうか、10年後には不幸な破綻を迎えてしまいました。

明治18年文部大臣となって発令した小学校令では、体操が必修科目となっています。教員の養成を目的とした師範学校では兵式体操を重視し、小学校では児童版の軍事演習ともいえる運動会を開催しました。教育を日本の国際的地位の向上と国民国家としての自立という目的のもとに考えてのことでした。その後、運動会は国家的制度以上に、地域の村祭りのような行事として受け入れられ、今日に至っています。

また修学旅行も明治19年に東京高等師範学校（現在の筑波大学）で行われた「長途遠足」が始まりと言われていています。

明治22年、大日本帝国憲法発布の当日、43歳で凶刃に倒れますが、福沢諭吉は弔辞の中で、「もし暗殺者が森の言動に親しく接していたら、わずかの交際で互いに心を開けていただろうに」と、その人柄を偲んでいます。

森のふるさと鹿兒島の秋は、現在でも毎年地域の運動会の賑やかな声に彩られています。

参考文献

人物叢書（森有礼、犬塚孝明、吉川弘文館）、運動会と日本近代（吉見俊哉他、青弓社）、かがやけ薩摩（原口泉、鹿兒島南ロータリークラブ編）



私立幼稚園の草分け～古市静子～

島津 登志子

明治19年、古市静子は東京に駒込幼稚園（現うさぎ幼稚園）を設立しました。現存する最古の私立幼稚園です。

静子は種子島の古い家柄に、1847年に生まれました。大河ドラマで話題の新島八重は静子より二歳年長です。

当時は女子教育の必要性は認められず、静子は勉強をする事の出来る弟をうらやみ、夜中に弟の本を密かに読むほどであったといいます。20歳の時には、勉学のために家出を試みるほどでした。明治になり森有礼の、女性にも開放された英語塾で学びます。男女平等という西洋式の考えを持つ森有礼との出会いはその後の静子の人生を大きく動かします。26歳で森を頼り上京、明治10年30歳で、東京女子師範（現お茶の水女子大学）に入学しました。当時の親友には日本女医一号の荻野吟子がいます。明治8年の森の結婚は静子を失意に落とし、吟子が談判に行ったというエピソードも伝えられていますが、静子にとって森有礼は男女平等の目を開かせてくれた生涯の師であり、理想であったのかもしれませんが。森も静子への援助を生涯続けています。32歳、結核により退学、帰郷します。折から鹿児島では日本の保母第一号である豊田英雄が、県の要請で鹿児島幼稚園を設立の時でした。その助手として働いたことが幼稚園教育への始まりとなり、34歳で再上京します。矢島楯子の勧めで桜井女学校附属幼稚園（現女子学院）に勤務しますが、病気が再発、キリスト教に救いを求めるようになりました。そして、39歳で駒込幼稚園の設立に至ります。その後も園の経営難、夫の発狂と困難が続きますが、70歳の引退まで30余年幼児教育に奉仕しました。静子の信仰上の師であった海老名弾正は「内憂外患と戦ひ本領を失はなかつたことは、深い意味の人生の勝利者」と静子を評しました。新しい時代の荒波に揉まれながらも、昭和8年87歳で亡くなるまで、我が道を生き抜いた姿には大きな感動を覚えます。

参考文献

女たちの薩摩（日高旺、春苑堂書店）、豊田英雄と草創期の幼稚園教育に関する研究補遺Ⅰ 保育者古市静子の立ち位置（前村見、佐賀大学）、薩摩おごじよ（吉井和子、春苑堂出版）



日本の航空の先駆者・奈良原三次

古市 吉男

奈良原三次は、1877年（明治10年）、鹿児島市高麗町で生まれました。父奈良原繁は、静岡県令や沖縄県知事などを務め、後に男爵を授かっています。父の兄奈良原喜左衛門は、薩英戦争の発端となった生麦事件のとき英国人を最初に切りつけた張本人として知られています。

三次が航空を志すようになったのは、山口の旧制第六高等学校に在学中のことでした。父の任地沖縄へ船で向かう途中濃霧に出あい、こんな中で透視するには気球しかないと思ったのがきっかけだったそうです。

1908年（明治41年）、現在の東京大学工学部を卒業して海軍の技術者になりますが、同大学の木村駿吉理学博士の指導で飛行機の勉強も始めました。折しも臨時軍用気球研究会が編成されると、その委員となり、飛行機の研究に一層打ち込みました。

1910年（明治43年）10月、自ら設計して自費でつくった奈良原式1号機を東京の戸山ヶ原で自ら操縦して飛行を試みましたが、エンジンの馬力不足で滑走だけに終わりました。

同年12月には、陸軍は外国から購入した飛行機を東京代々木の練兵場で国内初飛行に成功しました。この成功の陰には、準備中に破損したプロペラを三次が手持ちのものを提供して急場をしのいだというエピソードもあります。

ここで彼は、海軍も気球研究会の委員も辞めて、2号機の製作に専念し、遂に翌年5月、埼玉県所沢に完成したばかりの陸軍の飛行場で、高度約4m、距離約60mの飛行に成功しました。これが日本の航空史上、国産機・民間機の初飛行とされています。

以後、彼は自ら操縦することはせず、飛行機の改良やパイロットの養成に努めました。また、千葉県の稲毛海岸の干潟を利用した民間初の飛行場を開設して、ここを拠点に全国各地で巡回飛行会を開催しました。晩年は、日本軽飛行機倶楽部会長を務めたり、グライダーの発展普及に努めるなど、生涯を日本の航空の発展に尽くし、1944年（昭和19年）に亡くなりました。

参考文献

山川出版社「鹿児島県の歴史」、千葉市稲毛民間航空記念館資料
所沢航空発祥記念館資料



飛行服姿の奈良原三次
協力：千葉市

「ビタミンの父」といわれた高木兼寛

神宮司 恒幸

高木兼寛は1849年、薩摩藩郷士の子として現在の宮崎市高岡町穆佐（むかさ）に生まれました。医者を目指した兼寛は、17歳のとき、鹿児島島の蘭方医である石神良策のもとで医学を学び、藩立の鹿児島医学学校へと進み、校長のイギリス人ウイリスにその非凡な才能を認められました。イギリス留学を勧められ、海軍省を経て、明治8年（1875）セント・トーマス病院医学校に入学しました。そこで、実践的な「病院医学」を修得し、看護婦の養成も病院に大切であることを学びました。

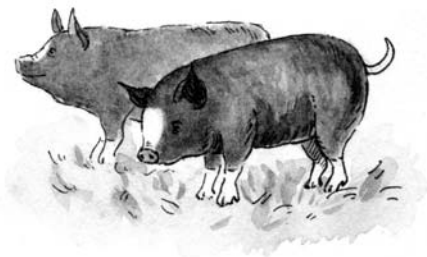
明治13年（1880）に帰国してからは、当時国民病であった脚気（かっけ）の予防の研究をしました。海軍軍医となった兼寛は、脚気に罹りにくいイギリスと日本の食事を比較しました。そして、脚気は白米のような炭水化物を多くとりすぎ、タンパク質が不足する栄養欠陥からおこる病気ではないかと考えました。「兵食改善」（パン、肉類を取り入れた食事内容の改善）による脚気の予防法を航海実験で実証しました。しかし、当時主流のドイツ医学を学んだ人たちは、脚気の原因は細菌であると主張し、兼寛らと論争をしました。

やがて日露戦争が起こり、白米に麦を混ぜる等の兵食改善をした海軍ではほとんど脚気は発症しませんでした。反対に兵食改善を軽んじた陸軍では多くの兵隊が脚気で命を落としました。この予防法は、後のビタミン発見に大きく貢献し、兼寛は、「ビタミンの父」と言われるようになりました。

兼寛は臨床医師を養成するための医学校（東京慈恵会医科大学の前身）や貧富の差別なく治療を受けることができる病院（東京慈恵会病院の前身）の設立などにも尽力しました。さらに、我が国初の看護婦教育所も設立しました。「病気を診（み）ずして病人を診（み）よ」という兼寛の言葉は、患者中心の病棟をつくろうとしたナイチンゲールの精神と全く同じものです。兼寛はイギリス留学で得た医学の知識を日本医療の向上に役立てようと尽力しました。

参考文献

吉村 昭「白い航跡」



世界的クライマー小山田大を育てた千貫岩

内山 憲一

世界的プロクライマーの小山田大氏は、1976年鹿児島県始良市蒲生町に生まれました。15才から独学でクライミングを始め、隣町（祁答院町）にある千貫岩や南さつま市の金峰山に通いました。全日本選手権や世界選手権等で頭角を現し、現在では日本を代表するトップクライマーとして世界を舞台に活躍しています。現在行われている主なクライミングには、2 mから4 m程の岩を確保なしで登る「ボルダリング」と、ロープで確保して高い岩壁や人口壁を登る「フリークライミング」があります。彼は、世界を舞台に両方の分野で大きな実績を残しています。

小山田氏の現在の活動は世界各地での難易度の高いクライミングの実践と岩場の開拓、そして横浜のクライミングジムの運営です。彼が積極的に開拓に取り組んで高い評価を受けている岩場は、鹿児島県内にも金峰山を始め垂水市の猿ヶ城溪谷、蘭牟田池外輪山にあります。鹿児島にはこの他に南大隅町根占の岩場があり、全国的にも恵まれたクライミング環境にあります。

小山田氏がクライミングを始めた1990年代には考えられなかった、天候や時間に関係なくボルダリングを楽しむことができる人工壁を備えたクライミングジムが県内にも複数出来て、ボルダリング愛好者が増加しています。複数で登るフリークライミングや一般的な登山の愛好者は中高年が多く、一人でも登れるボルダリングの愛好者は若者が圧倒的に多い傾向にあります。

鹿児島県には日本百名山に数えられる、霧島・開聞岳・宮之浦岳の三名山があります。これに加え、小山田氏を育てた千貫岩や金峰山、また新しく加わった猿ヶ城溪谷や蘭牟田池外輪山等の岩場があります。さらにクライミングジム等の人口壁も充実してきて、今では様々な形のクライミングを楽しむことができます。このような環境の中から、第二第三の小山田大が出てきて欲しいものです。

参考文献

小山田大HP. (daiKOYAMADA@daihold.com)



ボルダー（外岩）を登る小山田氏



キロニコボルダーパークの小山田氏

オリンピックと鹿児島人

西 正智

2012年に開催されたロンドン五輪では、鹿児島県出身の3選手（女子サッカー福元美穂＝銀、女子バレーボール迫田さおり、新鍋理沙＝銅）がメダルを獲得し、県民を大いにわかせてくれました。鹿児島はスポーツ王国と言っても過言ではないほど、毎回のようにはオリンピックに選手を送り込み、輝かしい成績を残してきています。その歴史は古く、第1号はなんと日本選手が初めて参加した1912年のストックホルム大会。参加した2人のうちの1人三島彦彦は、薩摩藩士で福島県令などを務めた三島通庸の二男でした。

そして、県出身で最初にメダルを獲得したのは鹿児島市の伊敷で生まれ育った鶴田義行です。自宅の近くの甲突川で鍛えた泳ぎで、1928年のアムステルダム大会200m平泳ぎで見事金メダルを獲得。同大会で同じく金メダルを獲得した陸上競技三段跳びの織田幹雄よりも試合が6日遅かったため、残念ながら日本人金メダリスト第1号は逃してしまいましたが、鶴田は続くロサンゼルス大会でも金メダル。日本人初の五輪連覇の快挙を達成しました。

同じロス大会の馬術競技で金メダルを獲得した軍人の西竹一は、県出身の元外務大臣・西徳二郎の息子。その活躍で現地の人々から「バロン西」として大喝采を浴びました。その後の太平洋戦争で小笠原硫黄島の守備についていた彼は、過去の栄光を知る米軍の投降の勧めにも応じず、無念の戦死を遂げました。

県出身の金メダリストには他に1984年ロス大会のレスリング・グレコローマンスタイル52kg級を制した宮原厚次がいます。

変わり種は、全日本選手権3連覇の実績を引っさげてカルガリー冬季五輪のアイスダンスに出場した志布志市出身の田中智子。南国のハンデもあり競技開始は15歳と遅かったのですが、鹿児島出身でも努力すれば冬季五輪に出場できることを証明してくれました。

これからも多くの鹿児島人が五輪に出場し、県民を喜ばせてくれることでしょう。

参考文献

近代オリンピック100年の歩み（ベースボールマガジン社）、めざせ！！鹿児島知っちゃいどんPART 2（西 正智著、高城書房）



鹿児島県の食文化の繁栄を築いた黒豚

横山 真由美

鹿児島県には“黒”の付いた特産物がたくさんあります。薩摩の黒豚は、その代表格です。肉質に優れ、とんかつ、しゃぶしゃぶ、焼肉、煮物、加工肉など、その美味しさは多くのグルメ愛好家から高い評価を得ています。

薩摩黒豚の品種改良は、地元の行政と民間との共同作業で行われてきました。戦前から南九州や薩南諸島一帯で飼育されていた在来の黒豚に、発育や肉質を良くするために、英国原産のパークシャー種を交配し、さらに研究・改良を重ね、現在の薩摩黒豚が出来上がりました。

高度経済成長時代には、欧米からのいろいろな改良品種が導入され、黒豚は一時減少しましたが、黒豚を懸命に守りぬいた地元の技術者や生産者の情熱が、最上級の旨みを有する現在の薩摩黒豚を造り上げてきました。

薩摩黒豚は、農業振興に結びつき、鹿児島県の食文化に華を添えるとともに、観光振興にも大きく貢献しています。

参考文献

南九州産業生物遺伝資源図説 監修 前田芳實

東郷平八郎のわがままから生まれた肉じゃが

久留須 政孝

おふくろの味「肉じゃが」、そのルーツを尋ねると海軍料理に辿りつきます。明治38年5月、日露戦争日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を破った東郷平八郎連合艦隊司令長官が、イギリス留学中に食べたビーフシチューを懐かしみ、部下に命じて作らせたといわれています。

ビーフシチューと同じ材料を使った牛肉とじゃがいもの煮物が明治時代から海軍料理の中にあり、昭和13年版海軍経理学校の「海軍厨業管理教科書」に「甘煮」として紹介されています。

甘煮 材料 生牛肉、蒟蒻、馬鈴薯、玉葱、胡麻油、砂糖、醤油

作り方 一. 油入れ送気 二. 3分後生牛肉入れ 三. 7分後砂糖入れ
四. 10分後醤油入れ 五. 14分後蒟蒻、馬鈴薯入れ
六. 31分後玉葱入れ 七. 34分後終了

備考 一. 醤油を早く入れると醤油臭く、味を悪くすることがある。
二. 合計35分と見積もれば充分である。

これをレシピどおりに作ると、まぎれもなく今日でいう「肉じゃが」になるのです。

参考文献

「海軍食グルメ物語」 高森 直史 (光人社)、「帝国海軍料理物語」 高森 直史 (光人社)

鰹節は心を“ホッ”とさせる幸せの味

今井 俊子

削りたての鰹節の香りを嗅いでみたことがありますか。日本一の鰹節生産地、枕崎と指宿市山川の港町には、鼻をくすぐる芳しい香りが流れています。この鰹節こそ日本人の繊細な舌が生み出した「うま味」です。甘味・苦味・塩味・酢味・辛味の他に“鰹だし”が作る味です。

江戸時代、紀州の漁師が煮てから燻す製法を編み出し、宝永4年（1707）枕崎に森弥兵衛によって伝えられた鰹節は現代まで約300年間製法は変わりません。原料の鰹は太平洋のどまん中で釣られ、急速冷凍で港に運ばれて来ます。この鰹を解凍し巧みな包丁さばきで4本に切り分け、95度の湯で90分程ゆであげます。もうここで食欲をそそる匂いが広がります。このゆで汁は煮つめて「鰹のせんじ」とよばれ、調味料として使われます。その後「ばい乾」とよばれる燻しを行います。幾段もの棚に並べられた鰹を下からカシ・マテバシイ・ナラなどの広葉樹を燃やし、80度の温度を保ちながら2週間燻すと「裸節」とよばれる製品となります。更にこの裸節にカビつけを繰り返し2～3ヶ月施し、2～3ヶ月熟成と天日干しを行い、半年後ようやく最上級の「本枯節」になります。

本枯節は枕崎と山川で全国の99%を生産しています。1匹5～6kgの鰹を4つ切りし本枯節として出荷される時は1本200～300gの固い節となりますが、割ってみると、何と思わず息をのむ程の美しさ。まるで宝石のルビーをおもわせる鮮やかな赤に変身しています。カビは最初は白っぽく、後から黄色、茶色と変化しますが、このカビが水分を奪いながらうま味成分のイノシン酸を生むのです。赤ちゃんのはじめての離乳食に鰹だしを使った重湯を飲ませてみてください。きっとニコニコと幸せそうな顔をするでしょう。日本独特の豊かな香り鰹節はこう言えるかもしれません。

「鰹節を食べることは日本人のひとつの教養である」と。



黒潮文化の鹿児島はこんな所です

今井 俊子

人口60万7000人の県都・鹿児島市を中心とする鹿児島県は、南北600kmにも及ぶ広大な地域で、赤道付近から北上して来る黒潮の流れに乗って、古来から特有の歴史・文化・食等を育てて来ました。又多くの火山に恵まれ、加久藤・姦良・阿多・鬼界の4つのカルデラと島の多くが火山の島となっているトカラ列島が炎の国を形成し、世界中の火山学者が注目するアカデミックな地域です。地下から湧き出す温泉の量は全国第2位を誇り、県都鹿児島市内の銭湯のほとんどが温泉です。更に金鉱脈も多く、金の埋蔵量（中でも菱刈鉱山の含有量）は抜きん出て第1位です。

1年中温暖な気候で、年間の平均気温は18度を数え、亜熱帯の植物や果樹が自生する暖かさです。太陽が育てた照葉樹が全県をおおい、人々をはるか縄文の昔から、悠々としてこの地に住み続けています。

中世になると鎌倉から島津氏が下向し、幕末まで700年間統治し続け、近代日本の幕開けとなった明治維新を成し遂げました。しかし明治政府の中枢にいた西郷隆盛と大久保利通の意見の違いから西郷が下野し、明治10年最後の内戦となった西南戦争で多くの人材を失い街も焦土と化しました。そして太平洋戦争でも鹿児島市は8回もの空襲を受け、街の9割が焼け、戦後も幾多の苦難を経験しました。しかし県民の特性である勤勉・自立・不屈不撓の精神を発揮し、この惨憺たる状況から見事に立ち直ったのです。

現在では全国第3位の農業生産額を達成し、日本の食糧供給県として発展しています。

人々は素朴で人情に厚く、温かな気質を持っていますが、これも温暖な気候と独特の文化や風土が育んだものといえるでしょう。



銘菓「春駒」の名前の由来

内山 憲一

古くからの鹿児島県の銘菓と言えば、軽羹（かるかん）と並んで有名なのが春駒です。この菓子を作ったのは、25代島津氏当主重豪（しげひで）の時代に、鹿児島県の新照院に住んでいた高橋種実です。高橋家は家運衰え士分を失い、何とかせねばと種実がふと思いついて餅菓子製造を始めました。重豪の開化政策で西田町に西田座という芝居小屋ができ、ここで売り出したところ飛ぶように売れ、家運を盛り返し、士分復帰も叶いました。種実はこれで菓子作りをやめるのですが、その後あちこちの菓子匠が工夫して現在の春駒が出来上がりました。

この春駒はそもそも見た目から「ンマンマラ」（つまり牡馬の性器）と呼ばれていました。この呼び名があまりにも直接的であったため女性や子供も呼びやすい「春駒」に変えられたようです。経緯は定かではありませんが、島津久光や大正天皇など貴人が名前を尋ねた際に、周りの人間がとっさに答えたとか、貴人が改名を指示したという話が残っています。名前の変更と同時に、かなりサイズも縮小され、「ンマ」から犬並となったとか。

同じような改名の例として、昭和24年に鹿児島本線の駅名が「饅頭石」から「上伊集院」に変更されました。駅名の由来となった饅頭石は駅の東の高台にあり、戦国時代の15代島津氏当主貴久が立ち寄り岩の割れ目から滴る水で髪を整えたと伝えられます。伊集院銘菓の伊集院饅頭も鉄道開通を機に作られたもので、饅頭石駅と関係ありそうです。

それでは大正時代からの駅名が何故改名されたのでしょうか。それは饅頭という言葉が、鹿児島弁で女性器または性行為を指す隠語であった為ではないか、と考えます。現在では鹿児島でもほとんど使われない言葉ですが、当時は大問題となったのでしょうか。今となっては歴史のある饅頭石駅の名も好ましく思えますが、言葉も時代と共に変わっていくということがつくづく実感されます。

参考文献

唐鎌祐祥「昔の鹿児島 かごしま新聞こぼれ話」（南日本新聞開発センター）



現代の春駒

地名に残る日本の芸能のルーツ

内山 憲一

鹿児島市の上町地区北部の高台には、鼓川（つづみかわ）・都曇答臘（たんたど＝鼓の音の擬音）・催馬楽（さいばら＝せばる）という地名が残っています。前二つは、和楽器の鼓にちなんだ地名で、催馬楽は古代歌謡のひとつです。

現在鹿児島市営バス吉野線の「たんたど」バス停と南国バス本城線の「せばる」バス停に挟まれた高台一帯には、かつて隼人族が住んでいて、隼人舞という芸能を伝えていたという言い伝えがあります。奈良時代の頃から、朝廷で大きな儀式がある時には必ず招かれて、舞を披露していたそうです。この舞がやがて能などの芸能に繋がったとの説から、付近には「催馬楽の碑」や、「能楽源流の碑」が建っています。

「武」の国のイメージの強い鹿児島ですが、日本の芸能のルーツとしての側面が地名に残されていることは、鹿児島に住む者として誇らしく思えます。



能楽源流の碑

参考文献

『鹿児島県史料 麿藩名勝考』（鹿児島県）

島津家と縁の深い薩摩琵琶

月野 祐子

1192年島津の始祖島津忠久は京都妙音寺常楽院の第19代盲僧、宝山検校を薩摩へ連れてきました。宝山は島津の祈祷僧として中島常楽院を建立、琵琶を弾き、国土の安泰を祈りました。時代は下り、戦国時代日新公島津忠良は琵琶の改良を命じ、ここに盲僧琵琶を源流とする薩摩琵琶の形が、確立されたと言われています。薩摩琵琶は、薩摩藩の庇護のもと武士の士気向上のため、教育的な歌詞の曲などを演奏するようになりました。ちなみに、忠良も「武蔵野」や「春日野」などの曲を作っています。戦国時代、僧侶達は、各地で琵琶を弾いて仏法を広めましたが、その際、地の豪族からさまざまな情報を聞き出し、九州統一を目指す島津にとってはとても重要な役割も担っていました。ちなみに、開祖、宝山といえば思い浮かぶのは、おいしい焼酎です。地元の酒造メーカーが琵琶を弾じ、人々の俸せを願う宝山検校に由来して付けた名前なのだそうです。

参考文献

吹上郷土誌

過酷を極めた薩摩藩の一向宗国禁と廃仏毀釈

山下 剛

仏教を始め宗教等は学問・建築・絵画等と共に文化の領域としてその価値は大きいものです。とりわけ、信仰の対象となる仏像・仏画・掛け軸・経文や経義等はその大きなものです。為政者の理解が得られていたら民衆の文化として大いに発展したでしょう。しかし、薩藩では江戸初期から明治初期に至るまでの約三百年間親鸞上人が説いた一向宗（浄土真宗）が国禁とされ、信仰が強く禁止されたのです。信者になると拷問・流罪・死罪等過酷な罪が課せられ、弾圧されました。為に信者達は山奥深い辺地や船上・洞穴の中に潜み、信仰を続け南無阿弥陀仏を唱えたのです。これをかくれ念仏といい現在もその後が多く残存します。何故薩藩が国禁としたのか諸説が考えられますが島津中興の英主日新斎が徒党を組み、時には軍事集団となって領主までおびやかしたりする一向宗門徒をととても嫌ったということや一向宗のもっているすべて仏の前では平等という教義が当時の封建体制に相そぐわない等の理由があったからだと考えられています。

浄土真宗だけでなく禅宗も含む仏教全体に及んだ廃仏毀釈も他藩には例のない厳しい過酷なものでした。明治元年から始まり明治四年までには薩藩の寺院はすべて取り壊され全滅しました。宝物は焼かれ、仏像や仁王象は首手足をもぎとられたり、土に埋められたりしました。現在、神社境内等にこのような跡が見られるのはこの時の廃仏毀釈の過酷さを物語るものです。何故このようなことが行われたのか。まず明治新政府が今までの神仏習合から神仏分離の方針を出したこと、次に幕末から起こってきた本居宣長等の国学の流向の影響を受けた復古神道の考え方が台頭してきたこと。そしてこのような時代の変遷に触発された鹿児島の人々を始め地域の住民まで血気の士となり過激な行動をとったものと考えられます。

参考文献

鹿児島百年（上）・鹿児島市郡山町史、花尾山かくれ念仏洞五看板



花尾かくれ念仏洞
(鹿児島市郡山町花尾)



首をもぎとられた仏像群
(鹿児島市花尾神社境内)



両腕をもぎとられた仁王像
(鹿児島市妙見神社入り口)

薩摩おごじょのアイドル今昔

西 正智

今をときめくAKB48恒例の選抜総選挙で毎年上位に名前を連ね、いつも最前列で笑顔を見せてくれる我らが「ゆきりん」こと柏木由紀。鹿児島県の薩摩大使にも就任して、故郷鹿児島を懸命にPRしてくれています。

文化の中心地・首都東京から遠く離れた鹿児島ではありますが、実はこれまでも数多くの県出身女性が彼の地ではばたき、一世を風靡してきました。そんな薩摩おごじょ(女性)アイドル達の活躍の一端を紹介します。

元祖おごじょアイドルと言えば、昭和初期の芸者新橋喜代三でしょう。種子島出身の彼女は、後に夫となる作曲家中山晋平との出会いをきっかけに上京。「鹿児島小原良節」を大ヒットさせて、鹿児島に古くから伝わるおはら節が全国的に知られるようになりました。

永遠の国民的アイドル吉永小百合は、父親が鹿児島出身で薩摩おごじょの血が流れています。純愛路線の映画で日本映画界に旋風を巻き起こしていた絶頂期の独身時代、彼女の本籍地は始良郡始良町でした。ちなみに、「純愛コンビ」の相手役である浜田光夫も親が鹿児島出身でしたので、鹿児島2世コンビが当時の一大ブームを支えていたこととなります。

テレビのオーディション番組で優勝し歌手となった高田みづえは、南九州市颯娃町の出身です。バラエティ番組でも活躍する多才ぶりを見せていましたが、同じ鹿児島人の大関若嶋津との結婚を機に潔く引退。今では松ヶ根部屋のおかみさんとして部屋を切り盛りし、おごじょぶりを発揮しています。

そのほかにも、映画「愛と誠」の早乙女愛、おニャン子クラブの国生さゆり、レコード大賞最優秀新人賞を受賞したMi-Keの宇徳敬子、最近では歌唱力を誇る中島美嘉やA I、元ちとせ、AKBの妹分HKTの宮脇咲良など枚挙にいとまがありません。一般に男尊女卑の強い土地柄と言われてきた鹿児島ですが、美しくたくましいおごじょ達の活躍を見れば、認識を新たにさせていただけるのではないのでしょうか。

参考文献

南日本新聞記事、めざせ!!鹿児島知っちょいどん(西正智著、高城書房)

意外に似ている島と森

鈴木 秀知

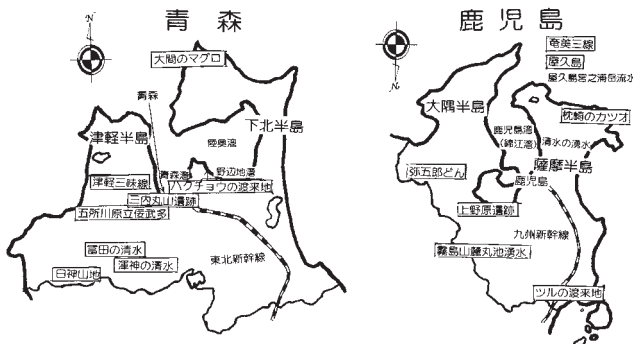
鹿児島島の地図をクルリと反転させ青森のそれと並べてみます。いかがでしょう、両者は意外に似ていると思いませんか。(島は除きます) 形だけではなく、ほかにもいくつが似通ったことがら、あるいは対応することがらがありますので列記してみましよう。

1. 2013年1月5日に東京・築地の中央卸売市場で行われた初競りで、一匹1億5540万円の値がついた大間産のクロマグロ。大間のマグロはつとに有名ですが、これに比肩するのが枕崎のカツオです。「枕崎ぶえん鰹」は農林水産大臣賞、内閣総理大臣賞を受賞した一級品です。
2. 鹿児島の上野原遺跡と青森の三内丸山遺跡。前者からは約9500年前の定住化初期の大集落跡が、後者からは約5500年前～4000年前の日本最大級の縄文集落跡が発見されました。
3. 勇壮な巨体が街を練り歩く鹿児島の「弥五郎どん」と青森の「五所川原立佞武多」「弥五郎どん祭り」は鹿児島の県下三大祭りのひとつ、「五所川原立佞武多祭り」は青森三大佞武多のひとつです。
4. 鹿児島の「霧島山麓丸池湧水」と青森の「富田の清水」「渾神の清水」はいずれも環境省選定の名水百選に選ばれました。鹿児島からはほかにも「屋久島宮之浦岳流水」と「清水の湧水」が選ばれています。
5. 鹿児島の出水はツルの渡来地、青森の小湊はハクチョウの渡来地として有名です。それぞれ「鹿児島島のツルおよびその渡来地」「小湊のハクチョウおよびその渡来地」として国の特別天然記念物に指定されています。
6. 全国に知られる奄美三線と津軽三味線。蛇皮線とも呼ばれる奄美三線にはヘビの皮が、津軽三味線には犬の皮が張られます。
7. 「屋久島」と「白神山地」(青森県、秋田県)は1993年12月にそろって日本で初めて世界自然遺産に登録されました。

1 から 4 までは両県の似たような位置に存在しているのも面白いですね。

参考文献

環境省、鹿児島県、青森県、鹿児島県上野原縄文の森、大間町、枕崎市、五所川原市、立佞武多の館、曾於市観光協会(以上のホームページ)、かごしま検定公式テキスト、ウィキペディア



鹿児島とフェリー

前田 健次

鹿児島は港としても重要であります。旅客数全国1位の航路は広島宮島航路ですが、2位は鹿児島桜島航路、全国3位は鴨池垂水航路です。

大正噴火によって桜島住民は大きな被害を受け、災害復興や教育振興（通学）のために鹿児島市街地と桜島とを結ぶ定期航路を望む声が上がりました。このため、西桜島村（のち桜島町、現・鹿児島市）が昭和5（1930）年頃より準備を始め、昭和9（1934）年11月19日より運航を開始しました。開通時の運賃は片道10銭・15銭でありました。

昭和16年には国内初のカーフェリー第一桜島丸が就航しています。自動車搭載用岸壁の工事も始まり、18年9月に竣工しました。

昭和51年4月に地方公営企業法全部適用。平成16（2004）年11月1日桜島町が鹿児島市に編入合併され、鹿児島市船舶部になりました。

平成24（2012）年4月船舶局に改組されました。

参考文献
桜島町「桜島町郷土誌」

桜島大正爆発の影響

前田 健次

来年は桜島大正爆発から100年になります。大規模噴火も近いのではないかとわれ、噴火災害への対応策の検討が問題になっています。

大正爆発は1月12日に発生し、風向きの関係で、降灰被害は大隅半島が中心でありました。従って、その後の土石流・泥流の発生も大隅半島が中心でした。

ところが、噴火は1月とは限りません。風向きが鹿児島市向きの時も想定せざるをえません。

県が桜島大正噴火記念誌を編纂したのは1925年でそれ以降の被害はまとまった記録がありません。つまり、被害の全貌は不明なのです。

そこで、記念碑の調査が始められていますが、肝属川の水系が中心です。そこで河川延長第2位の菱田川を調べる必要があります。

曾於市大隅町にある「山重太吉翁頌徳碑」によれば恒吉川付近に降灰が40cmあり、大正6年、10年に溢水があり、そのため、野方地区の馬生産の基礎を築いた山重太吉翁は破産し、開田が遅れたといわれています。

参考文献
大隅上荒地改良区「山重太吉翁頌徳碑」

谷山にあった軍馬補充部

前田 健次

都市化が進むが、指宿枕崎線や道路の整備が遅れる谷山。県農業試験場は移転したが、独立行政法人動物衛生研究所は現存する。そんな谷山に、戦前、軍馬補充部という施設が存在しました。

明治19（1886）年、青森県上北郡三本木村（現十和田市）と鹿児島県谿山郡下福本村に軍馬育成施設が設けられました。

三本木といえば、映画「三本木農業高校、馬術部～盲目の馬と少女の実話～」の舞台です。主演は長渕剛さんと志穂美悦子さんの長女、長渕文音さんでした。

ところで、長渕剛さんは鹿児島市上福元町の鹿児島南高校の卒業生です。

軍馬育成施設が設けられた理由は、地域防衛を目的とする部隊編成である「鎮台制」から移動しつつ戦闘を展開できる部隊編成である師団制への再編です。

軍馬の育成は、鉄道・道路の未整備なこの時代軍事戦略上不可欠なものでした。

参考文献

「軍用地と都市・民衆」（山川出版）

牧園にあった鹿児島種馬所

前田 健次

中高年の星、綾小路きみまろさんは、動物防疫の最前線、県曾於家畜保健衛生所のある志布志市松山町の出身です。

きみまろさんの父、假屋千尋さんは昭和9年、霧島市牧園にあった農林省鹿児島種馬所へ入りました。昭和13年1月、陸軍に徴兵され熊本野砲兵第6連隊へ配属されました。馬で分解した砲や弾薬を運ぶためです。昭和13年4月、千葉県の陸軍野砲兵学校へ入校。この学校で最優秀だったため、大尉で中隊長代理の朝鮮王族李ぐう公の馬番に任命されました。更に軍曹まで昇進し、昭和17年除隊しました。

種馬所は鉄道・道路の未整備な時代、軍事戦略上不可欠な軍馬の改良のため、明治29（1896）年に設けられました。戦後は、種場所は種畜牧場となり、牛や豚の牧場になりました。昭和25（1950）年には町営牧園牧場、平成8年に廃止となり、乗馬クラブになっています。

参考文献

NHK「ファミリーヒストリー」

食用馬輸入の最大の門戸鹿児島空港

古市 吉男

平成23年に日本に輸入された主要家畜の数は下表のとおりで、初生ひなを除くと牛が最も多く12,286頭、次いで馬が3,710頭です。馬の中でも、食用に仕向けられる肥育用が3,247頭で全体の87.5%を占めており、そのうちの1,883頭（58.0%）が鹿児島空港経由で、最も多くなっています。

動物を輸入するには、伝染病の侵入を防ぐため到着した港や空港で牛の場合は15日間、馬の場合10日間係留して検査しなければなりません。鹿児島空港の係留施設は、平成22年の第2検査所の新設に伴い、一度に224頭の馬を係留収容することができ、成田空港の収容能力88頭を大きく上回ります。鹿児島空港より大きい施設は、横浜、新門司、北海道の胆振にあります。いずれも空港に隣接しておらず、空港から専用車で数10分かけて移送することになります。こうした事情もあり、熊本などの馬刺し用の馬をカナダなどから輸入するのに鹿児島空港がよく利用されています。

なお、鹿児島空港での動物の検疫を担当しているのは、農林水産省動物検疫所門司支所鹿児島空港出張所です。

主要動物の輸入検疫数量（平成23年速報値）

区分	牛	豚	めん羊	山羊	馬	初生ひな
頭羽数	12,286	1,288	0	0	3,710	774,328

参考文献

農林水産省動物検疫所「動物検疫所の概要」、農林水産省動物検疫所門司支所鹿児島空港出張所協力



農林水産省動物検疫所鹿児島空港出張所

鹿児島空港の滑走路北側に隣接し、家畜の検査所はこの事務所の裏側と写真の左手(東側)の2か所にある。

日本で一番早い市民マラソン・いぶすき菜の花マラソン

今村 隆久

「いぶすき菜の花マラソン」は、昭和57年に「指宿温泉マラソン」として始まり、今年32回目を迎えました。毎年1月の第2日曜日に開催されており、日本で一番早い市民マラソンとして親しまれています。第1回目の参加者は306人でしたが、徐々に増加し、30回は21,409名という記録をつくりました。かつては5キロ、10キロ、フルマラソンの3種類で行われていましたが、徐々に種目を減らし31回目からはフルマラソンのみで行われるようになりました。フルマラソンは、沿道での大声援や、菜の花畑・池田湖・開聞岳等の大自然のほか、7.5キロ地点から2.5キロ毎に設置されている給水ポイントおよびそれ以外でも至る所で、ふかし芋やぜんざいなどのおもてなしなどでランナーを元気づけています。参加申し込みに当たっては年齢制限はあるものの、誰でも参加は可能です。

なお、フルマラソンコースに当たる平成18年に合併した現在の指宿市の花には「ハイビスカス」とともに「菜の花」が指定されています。また、指宿市内の商工会の名称は「菜の花商工会」となっています。

徳之島カムイヤキ陶器窯跡について

内匠 洋子

カムイヤキとは、伊仙町阿三のカムイヤキ池周辺で焼かれた壺、鉢、かめや椀などの焼き物（「類須恵器」とよばれる陶質土器）です。1983年にカムイヤキ池の工事に窯跡が発見されました。2005年までの調査で100基以上が発見され、これらの窯の活動年代は11世紀から14世紀ごろとされています。

分布範囲は約1000 kmにもおよびますが、徳之島以外の窯跡は発見されていません。琉球王国が成立する以前に、徳之島がカムイヤキの一大生産地として、南九州から奄美沖縄諸島全域におよぶ交易の中心地であったことを示します。また、カムイヤキの成立と高麗陶器との関係も指摘されています。

カムイヤキの開窯から閉窯までに至る歴史的背景、海上交易など、人、モノ、情報の交流、本土や琉球との関係の解明など、中世の南島社会の解明に重要な位置を占める遺跡です。そのため2007年2月には、国史跡に指定されました。

参考文献

「鹿児島県の歴史散歩」、南日本新聞記事

竜宮伝説は開聞、山川が本命だ

今井 征男

ニニギノ命とコノハナサクヤ姫との間には三人の皇子が生まれ、ホデリノ命（海幸彦）、ホスセリノ命、ホオリノ命（山幸彦）という。有名な海幸彦、山幸彦の神話です。

ホデリノ命（海幸彦）は魚をとり、弟ホオリノ命（山幸彦）は狩猟をして暮らしていました。ある時、弟山幸彦が懇願して互いの道具を交換したところ、山幸彦は兄の大事な釣り針を失くしてしまいました。海幸彦は元の釣り針をかえせとどうしても許してくれません。困り果てた山幸彦は塩土翁の勧めで竜宮界（開聞周辺）の綿津見神（海神）の宮に赴きます。そこで海神の娘「豊玉毘売（トヨタマヒメ）」と出会い、結婚します。そして婿入り谷に新居をかまえます。やがて釣り針を発見し、海神に秘策を授かって戻り、海幸彦を懲らしめ、服従させます。そしてこのホオリノ命（山幸彦）が正統な継承者となって天皇家へと繋がっていくのです。ちなみに初代の天皇神武天皇は孫にあたります。

竜宮伝説はこの海幸彦、山幸彦の神話から出たものと思われます。

山幸彦が浦島太郎、豊玉姫が乙姫様、竜宮城は開聞周辺です。婿入り谷も現在地名として残っています。玉ノ井も綿津見の宮の入り口とされます。

異聞竜宮伝説

昔々山川の若者が亀に乗って漁にでかけました。（沖縄、山川地区には船底が亀甲型の船がありました。亀は亀甲船と思われれます）。そして嵐に遭い沖縄（琉球）に流されます。竜宮城（琉球城）で乙姫様に会います。滞在は長きにわたり、ようやく山川に帰りつきます。

おみやげに貰った玉手箱を開けると白いけむりが出て白髪のお爺さんになりました。（実は玉手箱は化粧箱で・・・枚聞神社の宝物も化粧箱・・・その中にあった手鏡で自分をみたら真っ白になっていた）。という他愛無い異説があります。

参考文献
古事記



文豪の愛したお料理上手～坊津おごじょ達～

島津 登志子

文豪谷崎潤一郎の家では、昭和11年より次々と15人もの坊津出身のお手伝いさんが続きました。映画化もされた「台所太平記」には、明るくおおらかな彼女達の様子がユーモラスに描かれています。作中「鹿児島生まれの娘さんたちは、煮炊きをさせると、匙加減がまことに上手なのです」と評されていますが、食通で好みのうるさい谷崎に気に入られたお料理上手を生んだ背景には、坊津というふるさとの特色がおおいに影響しているように感じます。

薩摩半島の南西端に位置し、東シナ海を臨むリアス式海岸の陰翳に彩られる坊津は、古くは海外貿易の拠点として栄えた港町でした。遣唐使船が発着し、鑑真和上が日本への上陸を果たしたのも坊津の秋目浦です。その後も、博多、伊勢と並んで日本三津のひとつとして活発な海外交易を続けていました。

坊の津千軒薨の街も出船千艘の帆にかくると謡われ、鎖国時代にも密貿易の拠点として重要な位置をしめていました。しかし300年程前、享保の唐物崩れと呼ばれる幕府の一斉取り締まりにより、坊津は一夜にして寒村になってしまったのです。その後はかつお漁業の港として転身をしていきました。

また、秀吉に追われて坊津へ配流の身となった近衛信輔のもたらした京風の文化は、坊の八坂神社の秋祭りの京風風俗等として未だに残っています。

海外の文化をいち早く受容し日本のものとして消化し、一方伝統的な京文化とも融合させた坊津の土地柄は、匙加減の巧みなお料理上手にも通じる坊津おごじょ達の真骨頂の様に思えます。休暇の日に当時としてはハイカラなパリッとした洋服を着込んで出かけるお手伝いさんの姿に、谷崎はハッとしています。明るく働く女性達は、文豪の創作にインスピレーションをも与える存在だったのでしょう。

現在坊津には、台所太平記の碑が建てられ「さつま潟泊の浜の乙女子は嫁ぎてもゆくか伊豆の猛男に」との歌が刻まれています。

参考文献

台所太平記（谷崎潤一郎、中公文庫）、かごしま文庫④坊津（森高木、春苑堂出版）、鹿児島歴史探訪（松尾千歳、高城書房）



世間自然遺産・僕立公園垂水千本イチョウ

中馬 吉昭

私は今70才、東京都練馬区出身で家から田園越しに豊島園の運動場が見えた環境で育ちました。母方の伯父が原宿の竹下通りで洋菓子店を営んでいましたのでしばしば明治神宮や外苑近辺を散策したものです。この事がやがて本題の千本イチョウ作りのベースになっていく訳ですが勿論そのことを当時想像すらしていませんでした。大学を卒業して(株)西武百貨店に入社、そこで伴侶になる信子と出会いますがこれもまさか妻の実家鹿児島県垂水市に来ようとは夢にも思っていませんでした。しかし運命というものは不思議なものです。昭和50年に垂水に引越して来ますと山林が荒れ放題です。これは何とかせねばという強い思いが湧いてきました。さてどうしたものか、どうせ作るなら人生の楽園のようなものに変えたい。いきついた答えがイチョウでした。そうですあの外苑や絵画館前のイチョウ並木の黄金色の世界です。主題が決まりましたが目の前には荒れた山林が立ちはだかります。夫婦で一步を踏み出さねばと体も入れない竹林から手をつけ一本一本切っていくのですが、一日やっても五坪程しか進みません。でもたったそれだけでも全く違った風景が現れます。こうした小さな成功体験のようなものを積んで、年間50本程のイチョウ苗木を植樹し続けて20年位経過すると秋には、銀杏の実と黄金の世界がやってきました。平成20年の初冬にこの園の一般公開を始めましたが公開するに当たって大事なのがネーミングです。世間自然遺産・僕立公園垂水千本イチョウと名付けました。鹿児島在局のTVや新聞は全て、全国ネットでも3回取上げられた結果沢山の人が訪れ垂水市街への波及効果が著しく、寂しかった街並みを回遊する現象が生まれました。町の活性化がはかられたのです。そうした結果、春にも何かという期待が寄せられるようになったので園の隣地の竹林に山桜を植えるように決めました。昨年の二月より植樹を開始。今まさに十年後の満開を夢見て奮闘中です。



世間自然遺産僕立公園 垂水千本イチョウ
(鹿児島県垂水市)

西郷隆盛ゆかりの南大隅・根占

平野 紀一

西南戦争前夜、西郷隆盛は県内各地で狩猟を楽しむ悠々自適の生活を送っていました。南大隅の小根占にも3度足を伸ばし、雄川河口近くの平瀬宅を常宿として、愛犬を連れて狩を楽しんでいました。獲物はウサギが多かったようですが、たまには狸なども手に入ったようです。それら獲物の多くは村人に分け与えて、それを楽しみにしていたようでもあります。

しかし、その静かな日も長くは続きませんでした。明治10年（1877）1月に鹿児島から末弟の小兵衛が急報をもたらします。私学校徒たちが政府の弾薬庫を襲ったというのです。「シモタ（しまった）」。丁度昼時で、西郷の給仕をしていた平瀬家の14歳の娘谷川ふねの話が伝わっています。「先生はいかにも柔和な優しいお近づきやすい方でありましたが、この時のお顔の怖かったことは今でも忘れられません」。急遽大根占を経て鹿児島に帰った西郷はこの後時代の渦に巻き込まれていきます。この小根占での狩猟が最後の楽しみの時となりました。常宿となった平瀬宅には西郷直筆の掛け軸のほか、愛用の火鉢・急須・石風呂・手水鉢などが残されています。

時を経て、昭和12年（1937）5月に鹿児島市城山下に西郷銅像が建てられました。鹿児島出身の彫刻家安藤照の力作です。安藤は西郷銅像の台座に用いる石は自然石でなければならないと考え、石探しに西郷ゆかりの根占を訪れ、薩英戦争時の砲台のあった辺田（へた）まで足を伸ばし、海岸にごろごろしている花崗岩を選びました。辺田石（へためいし）は「長期の風雨と波浪にさらされて自然により量感と質とを持っている」とこれを台座に決めました。

辺田石の採石は昭和11年5月ごろから始まりましたが、住民は石の持ち出しに好意的で一致協力して協力と援助を惜しまず、関係者を感激させたと伝えられています。大小450個の石は築港工事に用いるクレーン船を使って鹿児島に陸揚げされました。安藤照はこうして二の丸時代から残された100個の石を合わせて550個の石一つ一つを生かす工夫をして台座を築き、10年近くをかけた陸軍大将西郷隆盛銅像を完成させました。

参考文献

- 『根占郷土誌・復刻改訂版』（根占町）
- 『翔ぶがごとく』（司馬遼太郎）
- 『大西郷と銅像』（安藤照）



西郷の常宿平瀬宅（南大隅町商工観光課提供）

3島なのに十島村!?

西 正智

その昔、鹿児島県には十島村という村がありました。「今もあるじゃないか」とすぐに御指摘を受けそうですが、現在は「としまむら」と呼ぶのに対し、以前は「じつとうそん」と呼んでいました。そして、一番の違いは、村を構成する島々です。現三島村に属する上3島（竹島、硫黄島、黒島）と、現十島村に属する下7島（口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、臥蛇島、悪石島、宝島）をあわせて1908年に置かれたのが旧十島村です。文字通り10の人の住む島で構成されていたのです。（注：当時、小宝島は宝島とセットで数えられていました。その後、臥蛇島が無人島になりましたので、現十島村も7つの有人離島で構成されているということになります。）旧十島村は、大島郡に属していました。

悲劇は太平洋戦争終結後に訪れます。アメリカの占領政策によって、北緯30度以南の下7島は米軍の軍政下に置かれることとなり、残った上3島が村役場のあった中之島と切り離されてしまったことから、3島で仮の十島村役場を鹿児島市に設置。一時的ではありますが、標題のとおり、「3島なのに十島村」になってしまったというわけです。1952年に下7島が日本復帰した際、正式に分離し、大島郡の三島村と十島村になりました。現在のように両村が鹿児島郡となったのは、だいたい後の1973年のことです。

南北600kmと言われる鹿児島県ですが、旧十島村の区域はその半分近くを占めていて、個性豊かで美しい島々が連なっています。種子島、屋久島と奄美大島の間の下7島の周辺の海は昔から「七島灘」と言われ、本土から奄美や琉球に向かう船が荒波に立ち向かう、避けては通れない交通の難所だったのですが、今では両村とも各島を結ぶ村営の定期船が就航し、気軽に訪れることができます。ヨットレースや島巡りマラソン大会などイベントも多く行われていますので、皆さんも是非一度三島村、十島村を訪れてみてはいかがでしょうか。

参考文献

三島村史、十島村史、三島村ホームページ、十島村ホームページ



入来と鹿児島にある国立天文台の電波望遠鏡

古市 吉男

鹿児島県には、電波望遠鏡を備えた国立天文台の観測局が2か所あります。一か所は、薩摩川内市にあるVERA（ベラ）入来観測局、もう一か所は、鹿児島市の錦江湾公園内にある水沢VLBI観測所鹿児島観測局です。

VERA入来観測局は、2001年（平成13年）に国立天文台と鹿児島大学が共同で鹿児島大学の牧場内に設置しました。VERAとは天文広域精測望遠鏡の英語の略称で、星が出す電波をVLBI（超長基線電波干渉計）という技術を使って星の位置を正確に測ることです。

VERAの観測局は岩手県の水沢、入来、石垣島、小笠原の4局で、いずれも20m電波望遠鏡を備え、そのうち3局で一つの星を観測すると地球の大気圏での電波の揺らぎを補正することができ、星の3次元の位置を高い精度で測ることができます。また、水沢と石垣島の距離は約2,300kmありますから、その大きさの口径の望遠鏡で観測するのと同じ精度で観測できます。そんな高い性能を発揮しながら、VERA計画は天の川銀河の地図づくりを進めています。入来観測局の近くの丘には、鹿児島大学理学部の1m光赤外線望遠鏡（九州最大）があり、電波観測と光学観測を合わせた特色のある研究もなされています。

水沢VLBI観測所鹿児島観測局は、6mの電波望遠鏡を備えています。これは、1993年（平成5年）に東京都三鷹市の国立天文台から移設され、鹿児島大学の学生らが観測に当たっています。VLBIの観測局は、本部の水沢と茨城県鹿島にもあり、鹿児島と3局を結んで口径1,306kmの望遠鏡の精度で観測しており、VERAの観測にも役立っています。

電波天文学は、1931年（昭和6年）にアメリカの通信技師カール・ジャンスキーが天の川からの弱い電波を初めてとらえてから始まった比較的新しい学問ですが、今や太陽や星雲、星や銀河、宇宙の全体像を研究するには欠かせない手段となっています。

参考文献

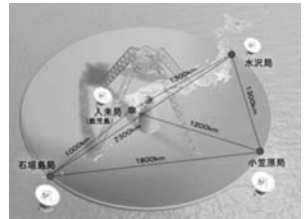
国立天文台資料、鹿児島大学理学部資料



VERA入来観測局の20m電波望遠鏡と鹿児島大学の光赤外線望遠鏡ドーム(後方)
写真提供：国立天文台



水沢VLBI観測所鹿児島観測局の6m電波望遠鏡
写真提供：国立天文台



VERA計画を進める4局
写真提供：国立天文台

宇宙ロケット発射場は、どうして鹿児島が選ばれたの？

大重 康雄

宇宙ロケットの発射場選定の条件は、当然ながら安全性と経済性であります。次に宇宙ロケットならではの、地理的条件があげられます。日本の宇宙開発黎明期、その開発が東京大学の研究所で行われていたことから、射場は東京都内や千葉でした。初期ペンシルロケットでは水平方向に発射実験を行っていましたが、その後本格的に垂直方向での実験が始まり、射場も秋田県道川海岸に移り、日本海に向けてK（カッパ）型ロケットの発射実験が行われました。ロケットの性能が上がるとともに、日本海では安全性の限界に達し本格的宇宙ロケット発射場の候補地選定がはじまりました。北は北海道襟裳岬から種子島まで全国調査をした結果、最終的に、昭和37年（1962年）鹿児島県大隅半島に位置する内之浦町に射場が建設されました。安全性・経済性を満たし且つ決め手になった条件とは何か？

ロケット打上げの大きな目的は、放送衛星や気象衛星など静止軌道上への人工衛星打ち上げです。通常、静止軌道で最も利用されているのが赤道上空約36000kmの軌道です。日本国内でより赤道に近いほど打ち上げでのエネルギー効率が高く選定条件の一つとなります。（内之浦の射場が建設された時期まだ、沖縄は返還されていない。）また東向きに打上げると、地球が西から東に回転している自転エネルギーを利用でき、赤道に近いほど自転速度は速い。我々は全く意識していないが種子島付近では秒速約400mという非常に速い速度で自転しています。昭和44年（1969年）に建設された種子島宇宙センターは、船舶航路や航空路に対する安全性や敷地の広さなど多くの射場条件を満たし、世界一美しいロケット発射場とされています。

参考文献

- ・独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 JAXAホームページ「種子島宇宙センター」他
- ・宇宙科学研究所（ISAS）ホームページ「日本の宇宙開発の歴史」
- ・文部科学省ホームページ「宇宙開発研究」



日本のロケット基地内之浦と種子島

古市 吉男

鹿児島県には、宇宙航空研究開発機構（JAXA（ジャクサ））のロケット基地が大隅半島の肝付町内之浦と種子島にあります。

内之浦宇宙空間観測所は、主に宇宙科学研究を目的とした天文観測衛星、惑星探査機や大気・プラズマの観測ロケットを固体燃料を使って打ち上げています。

中でも開設7年後の1970年（昭和45年）に東京大学宇宙航空研究所のL（ラムダ）4S型5号機で打ち上げた日本初の人工衛星「おおすみ」は、日本がソ連・アメリカ・フランスに次いで世界で4番目の人工衛星打ち上げ国となる快挙でした。また、2003年（平成15年）にM-V（ミュー・ファイブ）型）5号機で打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」が、7年かけて3億kmかなたの小惑星「イトカワ」から世界で初めてサンプルを持ち帰ったことは、画期的な成果でした。2013年（平成25年）夏からはM-5型の後継機E（イプシロン）型ロケットが打ち上げられます。

種子島宇宙センターは、1968年（昭和43年）に当時の宇宙開発事業団により開設され、世界で最も美しいロケット射場といわれています。ここでは気象衛星や通信衛星などの実用衛星等を液体燃料による大型ロケットで打ち上げています。

1971年（昭和46年）に3段式のN-I型1号機（Nは日本の頭文字）で我が国初の技術試験衛星「きく」が打ち上げられ、翌々年同型の3号機で打ち上げられた「きく2号」は、我が国初の静止衛星となり、日本はアメリカ、ソ連に次いで3番目の静止衛星打ち上げ国となりました。

ロケットも年を追って大型化し、1981年からN-II型、1986年からH-I型（Hは水素）、1994年からH-II型（以降2段式）、2001年からH-II A型、これにより2012年には日本初の商業衛星の打ち上げにも成功しました。また、2009年に開発された推進力のさらに大きいH-II B型により国際宇宙ステーションへ物資を運ぶ無人輸送機「こうのとり」の打ち上げも始まり、既に3回成功しています。

参考文献

宇宙航空研究開発機構資料



内之浦宇宙空間観測所全景(上)
次世代ロケットイプシロン射点(右)
写真提供：宇宙航空研究開発機構



種子島宇宙センターH-II A21号機の機体移動
写真提供：宇宙航空研究開発機構/三菱重工（株）

ロケットを支えた女性たちの力

倉 義経

日本初の人工衛星「おおすみ」や映画にもなった小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられた内之浦宇宙空間観測所は、昨年開設50周年を迎え、大小400機近いロケットと27機の人工衛星を打ち上げてきました。

しかし、その過程においては決して順風満帆ではありませんでした。ここでは、ロケットの打ち上げを支えた地元の女性たちの活動を紹介します。

まずは昭和35年、のちに「ロケット開発の父」と言われた糸川英夫博士が内之浦をロケット射場の候補地として指名されました。それまで漁業と農業が町の主産業で、道路も砂利道、隣町へ行くのも2時間以上かかり、電気が通っていない地域もあった内之浦の住民は、観光や産業資源として期待する半面、未知の実験施設に対する反発の声も大きく、ここで内之浦の女性会（当時婦人会）のメンバーは、糸川博士や内之浦町長らとともに住民の説得に各地をまわりました。

さらには、町には宿泊施設が少なかったため、民宿を増やすための声掛けや、食事を提供するのに必要な調理師の資格を女性部54名が取得しました。その甲斐あって射場の建設が内之浦に決定しましたが、急ピッチで進められた道路工事では地元の男性が出稼ぎや農繁期で少なかったため、女性陣が鍬やスコップを手にして作業を手伝うなど率先して行動しました。

昭和37年、観測所開所以降も施設に滞在する研究者の便宜を図るため、所内に売店を立ち上げ、食料やたばこの仕入販売を行い、この売店は昭和54年まで続けました。

人工衛星を打ち上げるまでは実験の失敗が相次ぎ、マスコミにもたたかれていたのを見ると、地元の高屋神社に早朝5時半に集合して打ち上げの成功をお祈りし、千羽鶴を折ってお宮参りをしてから実験班に贈りました。この時は東京大学の先生や町の住民も神社にお祈りしていたようで、まさに町全体が神様にすがる思いでいたようです。

その祈りが通じ、昭和45年、L-4S5号機で日本初の人工衛星「おおすみ」の打ち上げが成功し、女性部は祝賀会の準備や軍艦マーチを鳴らしながらパレードで町内を練り歩きました。そして、衛星打ち上げ時の千羽鶴の贈呈は現在でも続いております。

それからも女性部の定例会には大学の先生がロケットの講話を行い、逆に地元夏祭りの踊りの練習には女性部が指導役になるなど実験以外での交流も深まりました。女性部の交流に引きずられるように、男性陣もゴルフやソフトボール、カラオケやなんこ大会など、研究者と地域住民が密接に交流するようになりました。あるJAXAの先生は、「世界のロケット関係施設を見てきたがこれほどまで地元住民の理解が得られ、研究者との関係が深いところは無い」と述べられたほどです。

施設建設当時の内之浦の女性会は、会長が県婦人会連絡協議会の会長も務められており、強いリーダーシップのもと、横のつながりが強く、その行動力でまさに内之浦のロケット黎明期を支えてきたといっても過言ではありません。それから50年経過した現在、当時の交流を知る研究者、女性会員お互い少なくなってきましたが、代々築き上げてきた交流の絆を絶やさぬよう、そして後世に繋げていきたいと感じました。

参考文献

「内之浦町地域女性団体連絡協議会創設五十五周年記念誌」

写真提供：橋本雅子氏



人工衛星「おおすみ」打ち上げ記念パレード



早朝より打ち上げ成功を祈願する女性会のメンバー

躍進する鹿児島港と志布志港

古市 吉男

鹿児島県の港湾の数は、全国で最も多く131港です。中でも鹿児島港、志布志港、川内港、西之表港、名瀬港は重要港湾に位置付けられ、国内外の物流・交流機能の充実など、「力みなぎる・かごしま」の実現を目指し、重点的に整備が進められています。

鹿児島港は、桜島・大隅半島と結ぶフェリーや離島航路など全国で最も多い10本の定期航路が就航し、大型観光船や貨物船も出入りしています。平成22年の乗降客数は628万人で全国2位、入港船舶数は58,770隻で全国5位、取扱貨物量は4,022万トンで全国18位でした。

港湾区域は南北約20kmに及び、北から本港区、新港区、鴨池港区、中央港区、谷山一区、谷山二区、浜平川港区の7つの港区に分かれ、それぞれの機能分担に応じて整備されてきました。現在は、奄美・沖縄航路等が発着する新港区の岸壁や大型観光船が接岸する中央港区の「マリポートかごしま」の緑地の整備などが行われています。

志布志港は、志布志湾の北側から、漁船・官公庁船用の本港地区、東京方面の定期船や内航不定期貨物船のための外港地区、大阪・沖縄方面の旅客船や外貿・内貿貨物船等が利用する若浜地区、そして国際物流ターミナルとして平成21年3月から一部供用開始された新若浜地区があります。

今日、南九州が大規模な畜産地帯として発展しつつあるのは、若浜地区ができて飼料コンビナートが形成されたことと大きく関わっています。また注目すべきは、志布志港の沖合が環太平洋の国際海上コンテナルートにあたることです。現在、台湾、香港、フィリピン、韓国、中国へ4航路週9.5便のコンテナ定期航路が就航しており、その取扱量はこの10年余り急増傾向で、平成23年は過去最高の9万4千TEU（コンテナの単位）を記録しました。志布志港は、日本の国際物流の一翼を担って、さらに躍進を遂げることでしょう。

参考文献

鹿児島県土木部港湾空港課資料、国土交通省「平成22年港湾統計（年報）」



桜島正面の鹿児島港本港区と新港区(右側凹部)
鹿児島県ホームページより



志布志港全景：鹿児島県ホームページより
左より本港地区、外港地区、若浜地区、新若浜地区

産業

公営路面電車で日本一の鹿児島市電

岡本 昭雄

鹿児島市を走る鹿児島市電は、公営路面電車としては、日本最南端の、営業キロ、保有台数ともに日本一の規模です。現在の日本における公営路面電車は、札幌市、函館市、東京都、熊本市、鹿児島市の5都市であります。以前は、仙台市、横浜市などにもありましたが、車社会の発展に伴ない廃止され、バスや地下鉄へ転換されております。その中で、北の北海道、中央の東京都、南の九州の都市の路面電車が残っているのも興味深いものがあります。鹿児島市電のルーツは、明治44年設立の鹿児島電気軌道株式会社にはじまり、大正元年に、武之橋～谷山間6.419キロの運行を開始しております。その後、市街地へ路線を延ばし現在の路線の骨格ができあがっております。運営も昭和3年に鹿児島市が買収し、電気局・交通課・交通部・交通局と変化しております。市街地へ延長時のエピソードとして、今の山形屋前の電車道の話があります。いづろ～朝日通の路線を建設する時に、山形屋の当時の当主岩元信兵衛翁が、店の東側の土地を提供し路線を誘致したことです。さて、鹿児島市電の現況は、営業キロ13.1キロ、保有台数58両、年間約1千万人の利用客があります。車両は、最古参の500形から、超低床車の7000形まで各種あり、特筆すべき車両として、おはら祭に使用される「花電車」・散水車・芝刈車、そして観光電車「かご電」の存在があります。また全車両冷房化され、架線のセンターポール化、軌道敷の緑化（芝生）も進めております。現在、運行は2系統に集約され、日中3～5分間隔で運転されております。以前は、廃止された路線もありましたが、現在では延長の計画があります。昨年運転開始100年を迎えた鹿児島市電、鹿児島市民の足として観光客の足として街にとけ込み、今後の発展が非常に楽しみな存在であります。

参考文献

鉄道ピクトリアル 特集路面電車 (2011.8 臨時増刊)、鹿児島市電が走る街今昔 (JTBキャンブックス)、鹿児島市HP

公営企業の路面電車比較

公営企業体名	営業キロ数	保有車両数
札幌市	8.465km	34両
函館市	10.9km	37両
東京都	12.2km	38両
熊本市	12.2km	54両
鹿児島市	13.1km	58両

(平成23年現在)

市電利用者推移

年 度	年間乗車人員
2003	10,188,000
2004	10,572,000
2005	10,632,000
2006	11,295,000
2007	11,102,000
2008	10,868,000
2009	10,397,000
2010	10,537,000



農業の発展に私財を投げ打った加納久宜知事

横山 真由美

加納久宜（かのうひさよし、1848年生まれ、1919年没）は、1855年の安政江戸大地震で、7才の時、屋敷が倒壊して下敷きとなり、自身は助けだされますが、両親を亡くします。19才で、一宮藩主（現在の千葉県）となり、その後、一宮藩知事になります。

1894年～1900年まで、鹿児島県知事を務め、特に農業の近代化と生産力の向上に尽力し、めざましい成果をあげ、「日本農政の父」と呼ばれています。

知事の肩書きにとらわれない気さくな性格で県民から慕われ、西南戦争後の荒廃の中から今日の鹿児島県の基礎を築いた知事として高い評価を受けています。

県政の最重点施策を農業に置き、自費で指導者や技手をやとい、畑地を借り上げ、品質の向上に努めました。苗園で盗難が相次ぐので、責任を感じた技手が、辞表を手に謝りに行ったところ、「でかしたぞ！これからも盗まれるような苗をたくさん作ってくれ」と、逆に激励された、などの逸話がたくさん残っています。

教育にかける意気込みも、なみなみならぬものがありました。特に小学校の就学率引き上げは、「農業における土作りと同じだ」として力を入れました。その結果、明治30年当時56.3%（全国平均64%）だった、児童の就学率が、知事退任の年、92%と飛躍的に向上しました。ここでも、女兒のために教室におもちゃなど備えて、子守りをしながら勉強できるように、などのきめ細かい配慮をしています。

彼は、わらじばき、腰弁当姿で、県内をくまなく巡視、離島まで足を伸ばしました。そして、ひたすら県民の声に耳を傾け、できるものは即座に実行に移しました。

ただ、これらの経費の不足分を自費でまかなったため、加納家の借金は膨大な額に膨らみました。親族会議が開かれ、「こころで、もう知事道楽をやめてもらうしかない」と決議。やむなく、彼は休職を願い出、明治33年、熱烈な留任運動を振り切るように鹿児島を去りました。

晩年の家族の話題は鹿児島のことばかりで、「もし、我輩が亡くなっても、鹿児島のこと話があったら、冥土に電話せい」が口癖だったと言われています。

参考文献

かごしま県民交流センターに建つ加納久宜知事の碑文より、「鹿児島県の勸業知事 加納久宜小伝」 大園純也著



さつまいもの効用

三宅 康郎

さつまいも生産量日本一の鹿児島県。さつまいもの効用を生かして地域振興等に役立てたいものです。

1. 食糧難の救世主

さつまいもは救済作物として広く栽培されてきました。本県ではさつまいものお陰で飢饉がなかったと言われます。江戸時代の天明の飢饉や戦後の食糧難を救ったのもさつまいものお陰です。

2. ミネラル、ビタミン等栄養素も豊富

さつまいもは糖類やでん粉、ビタミン、ミネラル、食物繊維等栄養素に富んだ食物です。いわば米などの穀物と野菜類の性格を兼ね備えた食品で「準完全栄養食品」といわれます。さつまいもとメザシで生きてきたと昔の人は言います。

栄養成分比較（資料：五訂日本食品成分表（女子栄養大出版部））

作物	蛋白質%	食物繊維g	ビタミンCmg	カリウムmg	カルシウムmg
さつまいも	1.2	2.3	29	470	40
じゃがいも	1.6	1.3	35	410	3
ごはん	2.5	0.3	0	29	3

3. 単位当たりの生産量が高い

さつまいもは10アール当たりの生産量が米の約5～6倍。その上、茎や葉も食べられます。人口増や資源の有効活用が言われる中、単位当たりの収量が多いのはメリット。

さつまいも等のエネルギー生産量

作物名	エネルギー生産量※	比率 (%)
さつまいも	2,854	100
イネ	1,783	62
ジャガイモ	2,456	86

※ 1000Kcal/10a

4. 宇宙時代を担う食物

さつまいもは水耕栽培もでき、生産量も高く、茎や葉も食することが出来ることから限られた宇宙船などの空間で栽培するのに適しています。米国で研究に取組まれています。

5. 環境問題にも対応

さつまいもは世界の食糧不足への対応はもちろん、葉の生育が旺盛で二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する一方、大雨による土壌の流失を防いだりします。

参考文献

サツマイモ事典：(財)いも類振興会編集、さつまいも小事典：さつまいも伝来300年記念イベント鹿児島県実行委員会

鹿児島と競馬の意外な関係

西 正智

公営競技としての競馬場のない鹿児島では、生で競馬を見たことのある人は少なく、あまりなじみのあるものとは言えませんが、実はとても深い関係にあるのをご存じでしょうか。

鹿児島は、古くから名馬の産地として知られていました。広辞苑では「薩摩馬」として、「江戸時代、薩摩藩で飼育改良したもので、国産馬中最も乗用に適した。」とされているほどです。明治時代になると、鹿児島市や鹿屋市などで競馬が盛んに開催されるようになりました。鹿児島市では、今は見る影もありませんが、産業道路入口周辺の南小や南中にかかるあたりに、戦後の1956年まで一周1200mの広い競馬場があり、鹿児島県営や市営の競馬が開催されていたのです。

その後、馬の生産地の中心が北海道に移ったこともあり、名馬の産地としての鹿児島の地位はやや低下していきましたが、馬とのつながりを求めて多くの若者が中央競馬・地方競馬の門をたたき、騎手として活躍することになりました。鹿屋市申良町出身の吉永正人は、名馬ミスターシービーにまたがり1983年、クラシック3冠レース全てを、ほぼ最後方からの追い込みで制覇。その騎乗ぶりは今も語り継がれています。ほかにも、オバックホースの郷原洋行や徳吉一己、女性騎手最多勝記録を持つ宮下瞳、現役では四位洋文や幸英明と枚挙にいとまがありません。

また現在では、名馬の産地としての伝統を受け継ぎ、大隅半島を中心に、南国の温暖な気候を活かした競走馬の調教が盛んに行われています。1992年暮れの有馬記念で1番人気に押されながらも惨敗したトウカイテイオーは、大崎町の牧場で休養に入りました。そこでは志布志湾の白砂青松での調教を取り入れていて、じっくりと鋭気を養った同馬が翌1993年の有馬記念を見事に制し、引退の花道を飾ったことは今も語り草です。

これからも数多くの騎手やスターホースが鹿児島で生まれ、育ちゆくことでしょう。

参考文献

広辞苑第四版（岩波書店）、南九州の地名（青屋昌興著、南方新社）、めざせ！！鹿児島知っちょいどん（西正智著、高城書房）



かごしま検定 ～鹿児島観光・文化検定～ 試験概要

かごしま検定は、鹿児島県の内外を問わず、多くの方々が、鹿児島への関心を持ち、その素晴らしさを実感していただくために実施するものです。

試験は鹿児島の自然、歴史、文化、地域の特徴、産業・経済の5分野から出題します。

試験要項

【試験日程】 年3回程度実施

【試験地】 鹿児島市をはじめ県下各地域

【試験内容】 「かごしま検定～鹿児島観光・文化検定～公式テキストブック」を中心に、鹿児島の自然、歴史、文化、地域の特徴、産業・経済の分野から出題します。

【申込方法】 所定の申込書に必要事項を記入の上、金融機関にて受験料を振り込む、もしくは窓口を持参する。

マスター試験要項

【試験時間】 10：00～（制限時間90分）

【受験資格】 学歴・年齢・性別・国籍等に制限はありません。

【出題形式】 選択式50問（3択）

【合格基準】 100点満点とし、70点以上で合格とします。

【受験料】 3,150円（税込）

シニアマスター試験要項

【試験時間】 13：30～（制限時間90分）

【受験資格】 かごしまマスター試験に合格していること。

【出題形式】 選択式50問（5択）

【合格基準】 100点満点とし、80点以上で合格とします。

【受験料】 3,150円（税込）

グラドマスター試験要項

【試験時間】 10：00～（制限時間120分）

【受験資格】 かごしまシニアマスター試験に合格していること。

【出題形式】 小論文方式5問（分野別小論文4問、提案型小論文1問）

【合格基準】 100点満点とし、80点以上で合格とします。

【受験料】 4,200円（税込）

◇かごしま検定～鹿児島観光・文化検定～公式テキストブック

【内容】 鹿児島の自然、歴史、文化、地域の特徴、産業・経済

【執筆】 大木公彦、原口泉、久本勝紘、藤田聖二、中村聡志

【編者】 鹿児島商工会議所

【発行】 株式会社南方新社

【価格】 2,100円※県下書店、鹿児島商工会議所窓口にて販売しています。

※検定試験の詳細につきましては、鹿児島商工会議所企画産業部までお問い合わせ下さい。



【『かごしま検定』受験者の推移】

試験クラス	試験日	受験者	合格者	合格率	試験会場数
第1回マスター	H18. 4. 16	2,292名	2,092名	91.3%	24会場（鹿児島市のみ）
第2回マスター	H18. 10. 1	811名	521名	64.2%	19会場（県下9地区）
第1回シニアマスター		873名	416名	47.7%	
第3回マスター	H19. 6. 3	537名	228名	42.5%	13会場（県下9地区）
第2回シニアマスター		354名	126名	35.6%	
第1回グランドマスター		248名	87名	35.1%	
第4回マスター	H19. 11. 11	270名	195名	72.2%	13会場（県下9地区及び東京1会場）
第3回シニアマスター		226名	110名	48.7%	
第2回グランドマスター		105名	11名	10.5%	
第5回マスター	H20. 6. 29	186名	101名	54.3%	11会場（県下7地区）
第4回シニアマスター		118名	77名	65.3%	
第3回グランドマスター		69名	4名	5.8%	
第6回マスター	H20. 9. 10	69名	55名	79.7%	
第7回マスター	H21. 1. 25	167名	119名	71.3%	11会場（県下7地区）
第5回シニアマスター		75名	49名	65.3%	
第4回グランドマスター		41名	7名	17.1%	
第8回マスター		148名	120名	81.1%	
第6回シニアマスター	H21. 6. 7	44名	36名	81.8%	10会場（県下6地区）
第5回グランドマスター		29名	8名	27.6%	
第9回マスター	H21. 9. 10	77名	61名	79.2%	5会場（県下5地区）
第7回シニアマスター		26名	13名	50.0%	
第10回マスター	H22. 1. 24	174名	76名	43.7%	5会場（県下5地区）
第8回シニアマスター		44名	13名	29.5%	
第6回グランドマスター		25名	4名	16.0%	
第11回マスター	H22. 6. 6	141名	94名	66.7%	7会場（県下7地区）
第9回シニアマスター		31名	13名	41.9%	
第7回グランドマスター		15名	5名	33.3%	
第12回マスター	H22. 9. 8	99名	56名	56.6%	8会場（県下6地区及び東京1会場）
第10回シニアマスター		37名	23名	62.2%	
第13回マスター		142名	95名	66.9%	
第11回シニアマスター	H23. 1. 30	27名	14名	51.9%	7会場（県下4地区及び東京1会場）
第8回グランドマスター		23名	1名	4.3%	
第14回マスター	H23. 6. 5	124名	62名	50.0%	7会場（県下6地区）
第12回シニアマスター		29名	21名	72.4%	
第9回グランドマスター		17名	2名	11.8%	
第15回マスター	H23. 9. 7	89名	32名	36.0%	5会場（県下4地区）
第13回シニアマスター		11名	2名	18.2%	
第16回マスター	H24. 1. 29	281名	210名	74.7%	11会場（県下6地区及び東京1会場）
第14回シニアマスター		23名	15名	65.2%	
第10回グランドマスター		12名	2名	16.7%	
第17回マスター	H24. 6. 3	296名	196名	66.2%	12会場（県下7地区及び東京1会場）
第15回シニアマスター		48名	19名	39.6%	
第11回グランドマスター		12名	3名	25.0%	
第18回マスター	H24. 9. 5	66名	33名	50.0%	6会場（県下4地区及び東京1会場）
第16回シニアマスター		24名	11名	45.8%	
第19回マスター	H25. 1. 27	174名	130名	74.7%	9会場（県下6地区及び東京1会場）
第17回シニアマスター		49名	23名	46.9%	
第12回グランドマスター		6名	1名	16.7%	
第20回マスター	H25. 5. 26	119名	84名	70.6%	6会場（県下4地区及び東京1会場）
第18回シニアマスター		22名	14名	63.6%	
第13回グランドマスター		5名	0名	0.0%	

《これまでの実績》

マスター	合 計	6,262名	4,560名	72.8%
シニアマスター		2,061名	995名	48.3%
グランドマスター		607名	135名	22.2%